

令和元年度第5回袖ヶ浦市公民館運営審議会

1 開催日時 令和2年2月20日 午後2時30分開会

2 開催場所 長浦公民館 2階 研修室

3 出席委員

委員長	稲毛 博夫	委員	早川 敦
副委員長	長崎 容子	委員	齋藤 隆彦
副委員長	大野 俊江	委員	片寄 礼子
委員	庄司 三喜夫	委員	山田 まち子
委員	代田 雅文	委員	遠藤 信子
委員	田中 輝博	委員	鈴木 利夫

(欠席委員) なし

4 出席職員

教育部長	石井 俊一	長浦公民館館長	石橋 健彦
教育部次長	末吉 幸夫	長浦公民館副館長	花澤 吉敬
教育部参事	小阪 潤一郎	長浦公民館主幹	須田 紀子
市民会館館長	濱崎 雅仁	根形公民館館長	平賀 栄三郎
市民会館主幹	大野 正彦	根形公民館副館長	大田 知司
平川公民館館長	小堀 正雄	平岡公民館館長	在原 徹
平川公民館副館長	加藤 寿起	平岡公民館副館長	多田 智子

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 議 題

- (1) 令和元年度市民会館・公民館事業の成果と課題について
- (2) 令和2年度市民会館・公民館経営方針及び重点施策(案)について

7 報 告

- (1) 令和2年袖ヶ浦市成人式の実施結果について

8 その他

- (1) 第三期袖ヶ浦市教育ビジョンについて
- (2) その他

9 議 事

稲毛委員長

議題1、令和元年度市民会館・公民館事業の成果と課題について事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき、濱崎市民会館館長、加藤平川公民館副館長、花澤長浦公民館副館長、大田根形公民館副館長、多田平岡公民館副館長が説明。)

稲毛委員長

ただ今の説明に対して、委員の皆さまからご質問をお受けします。

長崎副委員長

台風の被害で講座が中止になるなど人数が減ったという現象が起きていることを痛感した。市民会館の乳幼児家庭教育学級は根形と合同であるが父親の家庭教育への意識向上につながり大変良かったと思う。2ページで定員を少なくしていくことを検討していくとあるが、全11回を2回にわけるとか2班にわけるとかして人数を減らさずにやっていく考えがあるかどうか伺います。

濱崎市民会館館長

保育ができないからだけではなく、適正な人数・けがの無いように講座を運営する等のことから定員というのは必要と考える。根形と合同でやっている経緯の中で、少ない回数では人間関係を作っていくのがむずかしいので回数を増やしてほしいという要望があったことから11回という回数でやっている。この回数を半分にするのはむずかしい。令和2年度は全体の中で家庭教育学級を見直していきたい。

長崎副委員長

平川公民館の高齢者生きがい推進事業で高齢者が公民館への移動手段がないという課題があるが、全館共通の課題であると考え。昨年度、根形公民館で小型バスでの移動を再検討していくとあったがこのような交通手段の対策は各館でされているか。

濱崎市民会館館長

高齢者おでかけ講座を総括する必要がある。こちらから地域の中へ出向いて行く講座であるが、一概にバスを使って迎えに行くものではなく、バスの空き状況の関係もあるので継続的な運営は難しい。

加藤平川公民館副館長

高齢者対象の講座について、公民館へ来ることのできない人をどうするか、というお話であるかと思うが講座生が身近なところで参加できるような対策ということが必要であるのと、平川地区には生き生きサポートという地域のボランティア団体があるので、可能性について検討していきたい。

花澤長浦公民館副館長

迎えのバスを出すという考えはございません。なるべく講座の情報を早く出して公民館に来ていただくということで考えている。

多田平岡公民館副館長

特に移動手段がなくて困るというような話は聞いていないが講座生同士で乗せてきてもらうということを考えている。

大田根形公民館副館長

全部バスを出しているわけではなく、のぞみ野方面の方のためにバスを出しているのが実情である。来年度も基本的にはマイクロバスを押さえて実施する方向である。

長崎副委員長

防災意識を高めることは大切なことである。根形公民館でローリングストック講座をやっているがこのような企画は大変良いと思う。防災意識を高める講座を行っていない公民館は次年度ぜひ行ってほしい。長浦公民館のながうら遊学塾は新しい事業ということで期待したが内容的には女性セミナーと全く同じで残念であった。環境講座がなくなったのでテーマとして環境に関するものを取り入れてほしかったがどこにも入っていなかったのが残念であった。意識を高めるためにも講座の中に取り入れてほしい。

片寄委員

地域連携推進事業は来年度以降どのような扱いになるのか。

濱崎市民会館館長

地域連携推進事業は一旦終了となる。しかし、ここで行ったことは今後にかされていく。来年度からは市民主体の活動が展開できるようになるために、根形公民館試行で地域人材育成講座が始まる。再来年度からの実施計画にも入っている。

田中委員

15ページ長浦公民館の「成人教育事業に限定されないが、各事業の整理が求められている」という意味は。

濱崎市民会館館長

毎年、実施した事業について振り返りを行っているが、どこかのタイミングで見直しをしていくことが必要であるということでご理解いただきたい。

大野副委員長

市民会館の「地域のまちづくり活動につながるきざしが見えてきた」というところ、平川公民館の木更津高等専門学校の方を講師とした講座、平川中の木工室を使っただけの展開、富岡分館の生垣などは良かったと思う。平岡公民館の取組で下校時の子どもたちへのちらしの手渡しなども参加者の増加につながったと思う。また、長浦公民館のながうら遊学塾の参加者の男女比を教えてください。根形公民館のローリングストックは募集が高校生以上となっているが、実際高校生の応募はあったのか。また、今回の台風の災害時に役に立ったのか。

花澤長浦公民館副館長

ながうら遊学塾はほぼ女性が占めています。

大田根形公民館副館長

平日開催であったので学生の参加はなかった。また、台風の災害では停電はしたがガスは使えたので調理に役だったかどうかは直接聞いていない。のぞみ野在住の社会教育推進員が地元で調理の方法を紹介したと聞いている。来年度もこの講座をやっていくことを検討はしたが実施の予定はない。今年参加された方を中心に実践してほしいと考える。

大野委員

せつかく高校生を対象とするならば時期をずらして夏休みに開催するなどし

てほしい。

稲毛委員長

他にございますか。それでは、質問等がないようですので、議題1について終了いたします。

議題2、令和2年度市民会館・公民館経営方針及び重点施策（案）について事務局より説明をお願いします。

事務局

（資料に基づき、濱崎市民会館館長が説明。）

稲毛委員長

ただ今の説明に対して、委員の皆さまからご質問をお受けします。

長崎副委員長

市民会館の調理室が老朽化している。また、平川公民館の調理室も老朽化している。改修等の予定はあるか。

濱崎市民会館館長

市民会館、平川公民館ともに改修の予定はありません。

加藤平川公民館副館長

平川公民館の調理室で、改修が必要と思われる箇所は、具体的にどこか？

長崎副委員長

平川公民館の調理室の水道が使いづらい。食器類も古くサイズもそろっていない。長浦公民館のものも何年も変わっていない。足りないものはそろえてほしい。

加藤平川公民館副館長

確かに使いにくさは感じられる。しかし、あの形状でないと、蛇口を収納して、天板を置くことができないという事情がある。また、食器類については、衛生面に配慮していく。

片寄委員

利用者の安全のため、避難訓練を毎年行っていると思うが令和2年度も行う

予定があるか。

濱崎市民会館館長

避難訓練は毎年行わなければならないものであるので、令和2年度も実施します。

田中委員

35ページで地域の課題や生活上の課題ということで根形公民館がローリングストック講座をやっているが、地域の課題をどこまで把握して行ったのか。

平賀根形公民館館長

ローリングストック講座及び下新田区と防災講座を行った。根形地区の自治連会長と話をしアンケートを取った結果、要望が多かったのが防災についてであった。来年度6月21日に根形地区班長100名くらいの想定で、内閣府避難所運営策定委員をされた浅野幸子さんを講師として講座を行う。そこで生の声を聴き、課題を収集して講座につなげていく。

田中委員

36ページ避難所運営マニュアルを各館で作成する、とあるがどのように考えているか。公民館だけなのか、危機管理課も含めるのか、災害対策コーディネーターを含めてやるのか。市民の声も反映できるようにしてほしい。

濱崎市民会館館長

今までは市としての大きなものしかなかった。どのような形でやるのかはこれから検討する。危機管理課と齟齬のないようにする。

齋藤委員

公民館も台風の被害を受けたと思うが、修理は今年度で終わっているか。

濱崎市民会館館長

概ね終わっている。一部来年度に回すものもある。

鈴木委員

横田にケアセンターがある。避難所になってもいいということで話をつけてある。市として避難所にする手続きは必要か。

濱崎市民会館館長

公民館としてはお答えできない。

大野副委員長

35ページ長浦公民館の新規事業は今年度と同じ形態であるが、どこでこの事業を展開していくのかお聞きしたい。

花澤長浦公民館副館長

「地域支援づくり事業」では、「ながうら青空の会」の企画で青少年健全育成者を発掘するために地域の人に公民館に来てもらうことを目的とした「溜まり場」という事業を支援している。そこに参加する人が増えれば公民館の事業に関わる人が増えるので支援している。

片寄副委員長

17ページの14の中止になった事業が「溜まり場」であるか。

花澤長浦公民館副館長

17ページの14は当初企画していた講座であるが、退職を控えた年代の方に公民館に足を向けていただけるような講座を館長と企画していたところ、台風関係の影響で今年度は見送ることになったものである。これと並行して「溜まり場」の支援を行っている。「社会教育推進員」、地区住民会議「ながうら青空の会」「NAGAX」のスタッフの後継者を探すということもありここ3年ほど支援している。

石橋長浦公民館館長

35ページを見ると14ページとつながっているような印象を受けますが、当初企画の講座と「溜まり場」は別のものである。

田中委員

33ページの「住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能の一層の強化を図ります」とあるがこれが地域人材支援講座につながっていくのか。

濱崎市民会館館長

根形公民館で行う地域人材支援講座を来年度に準備と試行する。

稲毛委員長

他にございますか。それでは、質問等がないようですので、議題について終了いたします。

次に報告に入ります。報告1、令和2年袖ヶ浦市成人式の実施結果について事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき、濱崎市民会館館長が説明。)

稲毛委員長

ただ今の説明に対して、委員の皆さまからご質問をお受けします。

片寄委員

平川地区の「新成人の主張」では6名の方が主張を発表しているが、どのように決めているか。

加藤平川公民館副館長

新成人の実行委員の方たちが自分たちの仲間内で決めている。

大野委員

何回も成人式に参加しているが、昔はもう少しきちんと長い主張があったが今年はノリが良い方がされていた。

長崎副委員長

長浦に出席したが、親の参加が多く会場の椅子に座りきれずロビーから見ている状況である。式典に親が参加するのを今後も続けていくのか。

花澤長浦公民館副館長

行事に両親が参加するケースが多くある中で、成人式は子育ての集大成でもあり、今後も続けていければと考える。

早川委員

一生に一度のことで、親もPTAなどで関わりのあった人との久しぶりの再会を喜ぶ。わきあいあいとしていて良いのでは。18歳成人だと高校3年生が参加できない。20歳の集いのような形で開催しても良いのではないか。成人式がなくなるのはさみしい。集まる機会は必要である。

片寄委員

成人式当日にアンケートを取っていたが、集計はどうか。

濱崎市民会館館長

保護者を含めた回答総数130、うち新成人の回答123、出席者484名であったので25.4%から回答を得た。18歳成人に関する設問では20歳とする121名、18歳とする3名、他3名であった。慣例で定着しているからという回答が多くあった。こういった声を参考にしながら検討していきたい。

稲毛委員長

他にございますか。それでは、質問等がないようですので、報告について終了いたします。

次にその他に入ります。その他1、第三期袖ヶ浦市教育ビジョンについて事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料に基づき末吉教育部次長が説明)

稲毛委員長

ただ今の説明に対して、委員の皆さまからご質問をお受けします。

田中委員

4市の公民館運営審議会委員の研修があり、台風災害の後だったので、台風災害と公民館との関わりについての話でした。その際に講師に伺ったのですが、千葉市は公民館が指定管理になっているそうです。そのためなのでしょう、指示系統が危機管理課だとか、教育委員会、それから指定管理者の財団からといろいろなところからあって公民館が混乱したらしいのです。そういうこともあってその講師の印象としてはまずい状態だなという感じだった。袖ヶ浦は今後、ご説明のありました教育ビジョンの中に公民館を指定管理者制度の方に向けていくというふうなお考えなのかどうかお伺いしたい。

末吉教育部次長

そういった意見があるということも踏まえたうえで、公民館は社会教育法に定められた施設でありまして、指定管理者がなじむかどうかということも含めて、いろいろな観点から、良い面悪い面ありますし、袖ヶ浦市としてはどうある

べきかを優先したうえで決定していくべきだと思います。

田中委員

まだその時期ではないということですか。

末吉教育部次長

はい。

田中委員

わかりました。

稲毛委員長

他にございますか。それでは、質問等がないようですので、その他1について終了いたします。

次に、その他のその他ですが、事務局なにかありますか。

事務局

(小阪教育部参事が令和元年度山野貝塚講演会について説明。)

稲毛委員長

その他、ございますか。

早川委員

コロナウイルスの関係で質問であるが、音楽協会主催の音楽会を予定している。中止にするように要請が来ることはあるか。

濱崎市民会館館長

今のところありません。

稲毛委員長

その他、ございますか。

それでは、以上で予定された案件については、すべて終了しました。慎重審議、ありがとうございました。

午後4時49分閉会

令和元年度第5回袖ヶ浦市公民館運営審議会

日時：令和2年2月20日（木）

午後2時30分～午後5時

場所：長浦公民館 2階 研修室

次 第

1 開会のことば

2 委員長あいさつ

3 教育部長あいさつ

4 議題

(1) 令和元年度市民会館・公民館事業の成果と課題について

(2) 令和2年度市民会館・公民館経営方針及び重点施策（案）について

5 報告

(1) 令和2年袖ヶ浦市成人式の実施結果について

6 その他

(1) 第三期袖ヶ浦市教育ビジョンについて

(2) その他

7 閉会のことば

第23期袖ヶ浦市公民館運営審議会委員名簿

No.	氏名	選出区分	備考
1	しょうじ みきお 庄司 三喜夫	学校教育 小中学校長会代表	1 期目
2	しろた まさふみ 代田 雅文	社会教育 文化協会代表	1 期目
3	たなか てるひろ 田中 輝博	社会教育 子ども会育成会連絡協 議会代表	2 期目
4	はやかわ あつし 早川 敦	社会教育 音楽協会代表	2 期目
5	いなげ ひろお 稲毛 博夫	社会教育 体育協会代表	委員長 7 期目
6	さいとう たかひこ 齋藤 隆彦	家庭教育	2 期目
7	ながさき ようこ 長崎 容子	学識経験者	副委員長 4 期目
8	おおの としえ 大野 俊江	学識経験者	副委員長 4 期目
9	かたよせ れいこ 片寄 礼子	学識経験者	2 期目
10	やまだ まちこ 山田 まち子	学識経験者	1 期目
11	えんどう のぶこ 遠藤 信子	学識経験者	1 期目
12	すずき としお 鈴木 利夫	公募委員	1 期目

任期 平成30年7月1日から令和2年6月30日まで

議題（1）令和元年度市民会館・公民館事業の成果と課題について

① 令和元年度市民会館事業の成果と課題

（1）青少年教育推進事業

「子どもチャレンジ教室」「世代間交流事業」

○主な学習内容

子どもチャレンジ教室：博物館の収蔵庫を見よう、家族を守るのは君だ「もしも」にそなえる防災教室、夏の生き物観察会盤洲干潟にいこう、車ができるまでを知ろう・未来の技術を体感しよう、理科実験電子オルゴールをつくろう、ボタニカルアートに挑戦はじめての植物画体験、調理実習おとうふ作りにチャレンジしようほか
世代間交流事業：自然素材を使ったクリスマスリースづくり、お正月飾りづくり

○成果

子どもチャレンジ教室では、昨年と同様に移動教室や電子工作を実施したほか、袖ヶ浦市内及び周辺 naturally、博物館についてより深く知ることができる内容も取り入れ、参加者には好評だった。また、市内の関係団体に講師を依頼し、近年盛んにおこなわれている防災教室も行い、昨年以上に幅広い内容の体験を行うことができた。

世代間交流事業は、クリスマスリースづくりとお正月飾りづくりを地域の方との協働で12月に行っており、地区の恒例行事として定着している。

○課題

子どもチャレンジ教室では、年間の申込者数が減少した。4年生からの申し込みが多いものの、5年生及び6年生の申込者数が伸び悩んだ。講座内で実施したアンケートも参考に、来年度の講座内容について検討する必要がある。

世代間交流事業では、事前準備として材料を確保する必要があることや講師・協力者の高齢化が進みつつあることが課題である。

（2）家庭教育総合推進事業

「乳幼児家庭教育学級」「地域家庭教育学級」「中学校家庭教育学級」「親業訓練入門講座」

○主な学習内容

乳幼児家庭教育学級：農村体験・野菜の種をまこう、思い出をもっと素敵に・プロが教える写真講座、色であそぼう・初めてのお絵描き、親子で作ろうエコバックほか
地域家庭教育学級：子どものやる気を引き出す親の役割、学校給食センター見学ほか
中学校家庭教育学級：人生の準備教育、思春期の子供との関わり方、移動教室ほか
親業訓練入門講座：親業って何、親業訓練の目的、親の役割とは何かほか

○成果

乳幼児家庭教育学級は、昨年度から根形公民館との合同開催とし、年間11回（うち2回は台風により中止）と学級回数を増加して開催したことで、学級生同士が顔を合わせる機会が増え、より交流が深まっているように感じた。また、対象を0歳からと拡大したことで、口コミ等で参加者が開催中に増加していった。さらに、今年度は、父親の家庭教育への意識の向上及び、社会参加をするきっかけづくりとして、父親と子どものみを対象とした講座を2回実施し、見込みよりも多くの父親の参加が見られ、意識の高さが伺えた。

地域家庭教育学級は、子育てに関する学習機会の提供と同じ世代の子どもを持つ保護者同士の仲間づくりを目的に、学校給食センター見学やかまぼこづくり体験など主に食に関する講座を開催した。企画・運営にあたっては各校PTAとの連携・協働により実施した。

今年度の5館合同講演会は、親業訓練協会シニアインストラクターを講師として、「子供のやる気を引き出す親の役割」をテーマに、参加者どうしが共通の問題について考え、情報を共有し、解決についての知識を習得することを目的に開催した。

中学校家庭教育学級は、企画・運営を中学校PTAに委託し、市民会館とPTAが協働して、スクールカウンセラーによる講義や健康づくりなどの講座を開催した。

親業訓練入門講座は、子どもとのより良いコミュニケーション方法を学ぶため、グループディスカッションやロールプレイなどの体験学習（訓練）を中心に実施した。受講生からは、「毎日の子育てに不安を感じ、ストレスで苦しい時がありました。どうしたら良いのか？これで大丈夫？と悩んでばかりの時間が、講座に参加して、子供と過ごす時間が楽しいと思えるようになりました」などの意見が聞かれ、より良い親子関係を作るための知識、技術を学んだ。また、受講生有志により、親業訓練一般講座が開催されるなどとても有意義な内容であった。

○課題

乳幼児家庭教育学級では、対象を0歳児からと拡大しており、今年度は、25組の家族の参加があり、子どもは33人、うち2歳未満は14人であった。保護者のみで活動したい、リフレッシュしたいとの要望もあるが、2歳未満は保育ができないため、基本は保護者と一緒に活動できる内容とした。今後、出席率が上がると、多くの家族が参加できる内容に限られてきてしまうことが考えられるため、家庭教育力の向上という学級の目的から定員を少なくしていくことも検討していく必要がある。

(3) 成人教育推進事業

「女性セミナー」「さわやかセミナー」「舞台コーディネーター養成講座」「単発講座」

○主な学習内容

女性セミナー：避難所でエコノミークラス症候群にならないために、食品の家庭備蓄を始めよう、東京臨海広域防災公園視察、安心できる避難所づくりほか

さわやかセミナー：袖ヶ浦市の歴史、海苔すき体験～ナラワスサビノリと袖ヶ浦～

舞台コーディネーター養成講座：舞台、照明、音響操作講習、総合演習

単発講座：着物着付け入門講座、家族で太巻きずしづくり

○成果

女性セミナーでは、今年度は「災害に備えて」をメインテーマに講座を開催した。おりしも台風による被災もあり、当初予定していた内容を変更して実施した回もあった。受講生からは、「もっと早くに知りたかったです」「台風被災直後の講座で興味深く受講できた。調理実習で、実体験出来たことが良かった。今後町内での集まり等で実施してみたいと思います」との意見が聞かれ、防災意識の高揚が図られた。

舞台コーディネーター養成講座は2月～3月の開催予定である。

単発講座は3月の開催予定である。

○課題

さわやかセミナーでは、成人男性40歳代から60歳代を主な対象として実施しているが、60歳以上の参加者が多い。働き盛りの男性に行ってみたいと思わせる工夫が必要である。

女性セミナーでは、身近な生活課題や社会課題の中から、年間のメインテーマについて受講生の意見を参考に社会教育推進員とともに設定することとしているが、男女共同参画計画など諸計画により実施することとされている事業があるなどの制約がある。

舞台コーディネーター養成講座においては、定期利用団体の技術者養成もさることながら、市民会館で雇用する大ホール技術者の養成も併せて考える必要がある。

(4) 高齢者いきがい促進事業

「昭和ふれあい教室」

○主な学習内容

小（ちい）散歩で地域再発見、健康教室、ミニ運動会、芸能発表会、移動教室など

○成果

健康で充実した生活を送ることができるよう、学習や交流活動を通して一人ひとりの生きがいを促進するとともに、仲間づくりに資する場の提供を行い、各回、50～70名ほどの高齢者が楽しく参加することができた。また、ミニ運動会で、パラリンピック競技を模した種目や、はやぶさ2プロジェクトにちなんだ種目に挑戦するなど時事を意識したほか、合唱では童謡を唄うなど懐古も意識した内容により事業を実施した。

○課題

参加人数が多いことから、学びにおいては実習を行うことが難しく、講話に頼るとこ

ろが大きい。今後も、学級生の代表である運営委員や社会教育推進員との協働により、実施内容の工夫に努める。

(5) 各種行事推進事業

「市民音楽フェスティバル」「芸能文化まつり」

○主な内容

第38回市民音楽フェスティバル：袖ヶ浦市音楽協会との共催で、出演団体の参画による実行委員会を組織して実施し、大ホール、中ホール、フリースペースの3会場で市民が発表し鑑賞した。また、メインゲストには上総太鼓をお招きした。

芸能文化まつり：袖ヶ浦市文化協会との共催。詩吟、カラオケ、フォークダンス、フラダンス、社交ダンス、舞踊などの発表を実施した。

○成果

市民音楽フェスティバルでは、実行委員会による主体的な企画・運営により実施し、市民の日頃の成果の発表の場とするとともに、市民が音楽に触れる機会を設けることができた。

芸能文化まつりは、文化協会所属団体、市民会館登録サークルが出演した。今回より文化協会所属団体による舞踊が加わり、市内芸能文化団体の活動成果の発表として、より充実した内容とすることができた。

○課題

市民音楽フェスティバルは、出演団体が多く、また楽器類も多岐に渡ることから出演団体ごとの事前確認作業が重要である。実行委員間の情報共有を密にし、プログラムどおりにスムーズに行うことができたが、次回も創意工夫に努めて実施したい。

芸能文化まつりでは、参加団体は増加したが、団体内での高齢化が進行しており、今後の動向に注意が必要である。外部サークルからの出演希望もあるため、今後こうした団体やの文化協会や市民会館への登録を促すなどして、より多くの団体が出演できるよう工夫が求められる。また、出演団体が発表の場として終わることなく、団体が活性化する支援や工夫も重要である。

(6) 公民館地域連携推進事業

「地域で取り組む高齢者講座」「登録サークル等を講師とした講座」

○主な学習内容

地域で取り組む高齢者講座：市民会館内の地区単位を対象に実施する健康講座

登録サークル等を講師とした講座：小学生向けの書初め教室

○成果

地域で取り組む高齢者講座は2月～3月の開催予定である

登録サークル等を講師とした講座は、書道教室を実施し参加者、保護者だけでなく講師からも好評であった。また、本講座に限らず、各講座・教室において登録サークルを講師として起用する視点をもって事業を実施するなど、学びの還元・循環の意識の向上が図られた。

○課題

「地域のまちづくり活動へ発展させていくための仕組みを作る」という事業目的の達成に向け、事業を実施した。その中で、学びの循環の輪を広げていくことで地域のまちづくり活動につながる兆しが垣間見えた。本事業を発展させた「地域人材育成講座」に向け、各館や様々な主体との連携・協働を図る必要がある。

令和元年度市民会館事業実施状況報告

令和2年1月31日現在

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
1	目標1① (ア)地域 で子どもを 守る体制 づくり	青少年健 全育成事 業	地区住民会議(坂 戸の森みどりの会) 活動	通年	昭和地区各種団体 22団体	通年	22団体
2			青少年相談員支部 活動	通年	昭和地区青少年相談 員 14人	通年	14人
3			子ども会育成会支 部活動	通年	単位子ども会 8団体	通年	8団体
4			世代間交流事業	12月 1回(全1回)	昭和地区の高齢者と 親子 48人	1回	75人
5			通学合宿	9月23日～ 9月25日 (2泊3日)	台風影響中止	9月24日～ 9月26日 (2泊3日)	23人
6	目標1② (ア)家庭 の教育力 向上のた めの支援	家庭教 育総合推 進事業	乳幼児家庭教育学 級(うたたねハッ ピーくらぶ)(根形公 民館と合同)	6月～1月 (全11回)	就学前の幼児を持つ 保護者 107人	10回	116人
7			地域家庭教育学級	6月～2月 3回(全4回)	昭和地区の小学生の 保護者 74人	4回	125人
8			中学校家庭教育学 級	6月～11月 5回(全5回)	昭和中学校生徒の保 護者 91人	4回	64人
9			親業訓練入門講座	10月 2回(全2回)	高校生までの子を持 つ保護者 24人	2回	32人
10	目標1③ (ア)公民 館におけ る青年 事業の充 実	青年教 育推進事 業	子どもチャレンジ教 室	5月～2月 (全8回)	昭和地区の小学4年 ～6年生 109人	7回	133人
11			ファミリー劇場	2月11日	市民	2月10日	297人
12	成人式		1月12日	H11.4.2～H12.4.1に 生まれた昭和地区の 新成人 159人	1月13日	132人	
13	目標2① (イ)社会 教育関係 団体の活 動への支 援	利用者懇談会	3月 2回	定期利用団体	2回	35団体	
14		社会教育推進員活動	通年	社会教育推進員 10 人	通年	10人	
15	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域 と連携し た公民館 活動の充 実	公民館地 域連携推 進事業	地域で取り組む高 齢者講座	2月～3月 (全3回)	昭和地区の65歳以上 の方	2回	9人
			登録サークル等を 講師とした講座	12月 1回(全1回)	昭和地区の小学3年 ～6年生 41名	1回	35人
16		成人教 育推進事 業	女性セミナー	6月～2月 6回(全7回)	昭和地区成人女性 138人	7回	111人
17			さわやかセミナー	9月～12月 2回(全3回) 1回台風影響中止	概ね60歳代までの男 性	1回	3人

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
18	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域 連携した 公民館活 動の充実	成人教育 推進事業	単発講座	2月～3月 (1～2回)	市民	—	—
19			舞台コーディネーター養成講座	2月～3月 (2回)	市民、大ホール利用 団体	2回	18人
20		高齢者い きがい促 進事業	昭和ふれあい教室 (高齢者教室)	5月～1月 7回(全8回) 1回台風影響中止	昭和地区の60歳以上 の方 424人	8回	455人
21		まち・ひと・ しごと創生 関連事業	花咲け！女性シェ フ応援事業			—	—
22			第32回市民会館ま つり(文化協会後 援)	11月2日 11月3日 (2日間)	市民 7,486人	11月3日 11月4日 (2日間)	8,101人
23	目標2③ (ア)文化・ 芸術振興 のための 市民活動 の支援	各種行事 推進事業	ロビー展示	通年	8団体	通年	7団体
24			第38回市民音楽 フェスティバル(音 楽協会との共催)	11月24日	1,450人	11月25日	1,450人
25			第32回芸能文化ま つり(文化協会との 共催)	1月26日	400人(演者含め556 人)	1月27日	400人
26		親子deオペラ鑑賞デビュー(千 葉県文化振興財団との共催)	7月20日	144人	5月13日	327人	
27	目標3① 公民館運 営審議会 の意見の 反映	公民館運営審議会	5月～2月 3回(全5回) 1回台風影響中止	公民館運営審議会委 員 12人	5回	12人	

② 令和元年度平川公民館事業の成果と課題

(1) 青少年教育推進事業

「子どもクラブ」

○主な学習内容

凧揚げ大会、お菓子とアイスクリーム作り、川遊び、正月飾りづくりなど

○成果

登録サークルである、『伝統工芸保存会』主催の凧揚げ大会に参加することから始まり、物づくりや様々な体験活動を行った。川遊びでは、社会教育推進員を講師として、川で安全な遊び方や魚の釣り方を学ぶことができた。子ども達のニーズに合わせて企画した「電子オルガンを作ろう(講師：木更津高等専門学校)」は参加者も多く好評だった。

そして、最後に『伝統工芸保存会』を講師として、お正月飾りを作り1年を締めくくることができた。

○課題

中川富岡地区および平岡地区の児童を対象としているが、平岡地区の児童の参加が少ない。

(2) 家庭教育総合推進事業

「幼児家庭教育学級(平岡公民館と合同開催)」「地域家庭教育学級」「中学校家庭教育学級」

○主な学習内容

幼児家庭教育学級：羊毛フェルト、茶話会・アルバムカフェ、絵本の読み聞かせ、移動教室、クリスマス料理・クリスマス演奏会など

○成果

幼児家庭教育学級は、土日開催の講座を実施して父親の参加を働きかけたり、図書館事業(おはなし会)と共催したり、登録サークルにコンサートの開催依頼をするなど内容を工夫しながら実施した。移動教室では、小旅行気分でも和気あいあいとした雰囲気の中、リフレッシュでき、有意義な時間を提供することができた。

地域家庭教育学級・中学校家庭教育学級では、公民館とPTAが連携し、少年期の成長に必要な学習内容を取り入れた講座を展開し、保護者間の仲間づくりを深めることができた。

○課題

幼児家庭教育学級では、1回あたりの参加人数が少なく、学習効果や仲間づくりを深めることが難しいため、実施方法や内容の検討が必要になっている。

地域家庭教育学級・中学校家庭教育学級では、参加者の大半がPTA役員なので、P

TA役員以外の参加を増やしていくことが課題である。

(3) 成人教育推進事業

「女性セミナー」「ものづくり講座」「園芸講座」「ユースカフェ」「庭木の手入れ入門講座」「庭木の手入れステップアップ講座」

○主な学習内容

健康に関する講座、木工（折りたたみテーブル・イス作り）、夏野菜の栽培、バーベキュー、平川公民館・富岡分館の庭を使った剪定実習など

○成果

女性セミナーでは、年間学習テーマを「健康づくりと仲間づくりをしよう！」として、健康に関する学習機会を提供することができた。

ものづくり講座では、初心者向け木工教室を開催した。木工に必要な道具がそろっている平川中学校技術室をお借りした。テーブルやイスが完成したときの達成感など、ものづくりの喜びを味わうことができた。作業していく中で参加者同士が協力し合い、親睦を深めた。

園芸講座では、参加者の畑から土を採取し、土壌分析を行い、野菜づくりの基礎となる土づくりを学習した。また、夏野菜の栽培や果樹の剪定についてなど、幅広い事業展開を行った。

ユースカフェでは、「子どもクラブ」と共催してバーベキューを行ったが、参加者は2名に留まった。

庭木の手入れ入門講座・庭木の手入れステップアップ講座では、富岡分館で生け垣作りを行い、初心者に必要な知識や技術を学べる機会を提供することができた。

○課題

女性セミナーでは、高齢化により調理実習・手芸実習を避ける傾向がみられる一方、健康に関する学習意欲は高いので、「健康講座」に移行する時期になってきたと思う。

園芸講座では、「園芸」の内容が幅広く、参加者によって学びたい内容が異なるため内容の選定が難しい。

ユースカフェは、参加者が少なかったため、主催事業として区切りをつけるべきである。

(4) 高齢者いきがい促進事業

「うぐいす学級」

○主な学習内容

熱中症対策、落語講演、羽田国際線ターミナル見学、調理実習など

○成果

熱中症対策や食事、高齢者のための制度を保健師から学んだ。落語講演では、日本伝統話芸を楽しむことができ、笑うことの大切さを再認識できた。また、調理実習では、減塩をテーマとして、塩分について学び、おいしい減塩料理をつくることができた。

○課題

学級生が超高齢化しつつあり、参加地区の偏りもあり、地区役員が関わって参加するのは3地区のみとなっている。高齢者お出かけ講座（公民館地域連携推進事業）等で講座の周知活動が必要である。また、自宅から公民館への移動手段がないことから参加が難しいとの声もある。

(5) 各種行事推進事業

「ロビー展示」

○主な内容

各種団体の作品展示、平川地区の歴史に関する展示

○成果

文化協会所属団体や市内小中学生の作品を展示して、発表の機会を提供した。また、公民館まつりで好評だったミニ企画展「太平洋戦争中の平川地区 学童集団疎開」を1階ロビーに移設して、来館者に平川地区の歴史を紹介している。

○課題

平川公民館の登録サークルの展示回数が少ない。また、展示ケースがないため、盗難のおそれがある工芸作品などを展示することができない。

(6) 公民館地域連携推進事業

「高齢者お出かけ講座」「防災に関する講座」「登録サークル等を講師とした講座」

○主な学習内容

高齢者お出かけ講座：落語など

防災に関する講座：炊き出し体験会、防災グッズ作り（新聞紙容器）など

登録サークル等を講師とした講座：書き初め教室

○成果

高齢者お出かけ講座では、地区社会福祉協議会と共催で開催して落語を行ったが、第2回は会場が被災して中止した。第3回は2月に開催。

防災に関する講座では、袖ヶ浦市災害対策コーディネーター連絡会に依頼して、炊き出し体験会とデイキャンプ（地区住民会議「中富ふれあいの会」主催）を行い、大人から子どもまで多くの人に防災についての知識を広めることができた。

登録サークル等を講師とした講座では、書道サークルに講師を依頼し、冬休みに小学生（3～6年生）を対象に書き初め教室を開催した。公民館登録サークルの活性化及び

学習成果の活用や地域の世代間交流を図ることができた。要望があるため、引き続き来年度も実施する。

○課題

防災に関する講座では、令和元年の台風災害の教訓を地域に還元していく必要があると考えられる。

令和元年度平川公民館事業実施状況報告

令和2年1月31日現在

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和2年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
1	目標1① (ア)地域 で子どもを 守る体制 づくり	青少年健全 育成事業	地区住民会議(中 富ふれあいの会)活 動	通年	中富地区各種団体 19団体	通年	19団体
2			青少年相談員支部 活動	通年	中富地区青少年相談 員 9人	通年	9人
3			子ども会育成会支 部活動	通年	単位子ども会 5団体	通年	5団体
4	目標1② (ア)家庭 の教育力 向上のた めの支援	家庭教育 総合推進 事業	幼児家庭教育学級 (すまいる学級)(平 岡公民館と合同)	6月～12月 (全8回) 1回中止(台風)	2歳から就学前の幼児 を持つ保護者 33人 (16組)	8回	66人
5			中富地域家庭教育 学級	6月～12月 (全5回) 1回中止(台風)	中富地区の小学生の 保護者 57人	5回	83人
6			平川中学校家庭教 育学級	6月～12月 (全5回) 1回中止(台風)	平川中学校生徒の保 護者 46人	5回	80人
7	目標1③ (ア)公民 館におけ る青少年 事業の充 実	青少年教 育推進事 業	子どもクラブ	4月～12月 (全7回) 1回中止(台風)	中富・平岡地区の小 学4～6年生 138人	7回	142人
8	成人式			1月12日	H11.4.2～H12.4.1に 生まれた中富・平岡地 区の新成人 92人	1回	101人
9	目標2① (イ)社会 教育関係 団体の活 動への支 援	利用者懇談会		3月 1回	登録サークル・定期利 用団体	1回	27団体
10		社会教育推進員活動		通年	社会教育推進員10人	通年	10人
11	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域 と連携し た公民館 活動の充 実	公民館 地域連携 推進事業	高齢者お出かけ講座 (中富地区社協 いきい きサロンと共催)	5月～2月 (全3回) 1回中止(台風)	中富地区の60歳以上 の方 10人	2回	26人
			防災に関する講座(第2 回は中富ふれあいの会 デイキャンプと共催)	6月～8月 (全2回)	中富地区の市民・小 学生 187人	1回	130人
			登録サークル等を 講師とした講座(書 き初め教室)	12月 (全1回)	中川小3年生～6年生 20人	1回	18人
12		成人教育 推進事業	女性セミナー	5月～2月 (全7回)	中富地区の成人女性 90人	7回	116人
13			ものづくり講座	12月 (全4回)	市内成人 20人	4回	37人
14			園芸講座	5月～12月 (全4回)	市内在住・在勤成人 40人	4回	47人

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和2年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
15		庭木の手入れ入門講座 (シルバー人材センター と共催)	5月～11月 (全5回)	市内在住・在勤成人 42人	5回	80人	
16	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	成人教育 推進事業	庭木ステップアップ講座 (新、シルバー人材セン ターと共催)	1月 (全1回)	市内成人 16人	—	—
17		高齢者 いきがい 促進事業	うぐいす学級(高齢 者教室)	6月～2月 (全7回) 2回中止(台風)	中富地区の60歳以上 の方 96人	7回	143人
18		まち・ひと・ しごと創生 関連事業	ユースカフェ(青年 教室)	7月 (全1回)	市内在住・在勤の20 ～40代 2人	5回	49人
19		第33回平川公民館 まつり	11月23日 11月24日 (2日間)	市民 6,260人	11月10日 11月11日 (2日間)	7,483人	
20	目標2③ (ア)文化・ 芸術振興 のための 市民活動 の支援	各種行事 推進事業	ロビー展示	通年	文化協会加盟団体等 14団体	通年	14団体

③ 令和元年度長浦公民館事業の成果と課題

(1) 青少年教育推進事業

「わんぱく教室」「長浦ジュニアお琴・尺八教室」

○主な学習内容

わんぱく教室：ミニ七夕飾りづくり、デイキャンプ、調理実習他

長浦ジュニアお琴・尺八教室：琴、尺八の練習、発表

○成果

わんぱく教室では、子どもたちに自然体験をはじめ様々な体験活動を提供し、参加児童相互の交流を図ることができた。フラワーアレンジメントの際には、完成した作品を参加者同士で鑑賞して感想を述べ合うことなども行った。昨年度に引き続き、季節ごとに募集を行ったことにより、幅広い児童が参加し、子ども達が参加しやすい講座を行うことができた。

長浦ジュニアお琴・尺八教室では、月1回をペースに練習し、公民館まつりなどで、練習の成果を発表した。

○課題

わんぱく教室では、募集方法について工夫を行っているものの、対象児童数に対して申し込み数はあまり芳しくない。引き続き、魅力ある事業展開や募集方法を工夫し、参加者の増加を図る必要がある。

長浦ジュニアお琴・尺八教室では、初心者と経験者のコースを分けて実施している。公民館主催講座として、邦楽に触れる機会として開催し、経験者をサークルに移行していく必要がある。

(2) 家庭教育総合推進事業

「幼児家庭教育学級」「地域家庭教育学級」「中学校家庭教育学級」

○主な学習内容

幼児家庭教育学級：レクリエーション、調理実習他

地域家庭教育学級：施設見学、調理実習、他

中学校家庭教育学級：講演会、施設見学他

○成果

幼児家庭教育学級は、講座の中で参加者同士が会話する機会を増やすため子どもと一緒に楽しめるレクリエーションや調理実習を行い、参加者同士の交流が深まった。

地域・中学校家庭教育学級は、子ども理解及び家庭教育充実の一助となった。

前年度より取り組んでいる「家庭教育学級の運営改善」（4校連絡会による）は、微々たるものだが、成果をあげている。

○課題

各家庭教育学級の共通の課題として仲間づくりの面では一定の成果を上げていると考えられるが、子育てに関する知識の習得や学習活動を開催すると出席者が減少する。

幼児家庭教育学級においては、5館合同のチラシやポスターを作成して幼稚園や歯科医院などでの配布や掲示、市の広報紙やホームページに記事を掲載するなど周知活動に努めている。しかしながら講座生が講座内容を取捨選択して参加し、学習活動は欠席するも子どもと一緒に楽しめる活動には出席する場合があります、工夫を図る必要がある。

地域家庭教育学級は各小学校PTAと共催で講座を行った。来年度もよりよい講座運営に向けて運営の改善を進めたい。

中学校家庭教育学級では、PTA役員の参加が大半で、仕事を持ち多忙な母親が多く、PTA役員以外の参加を増やしていくことが難しい。今年度は長浦中・蔵波中の両中学校家庭教育学級で、趣味的な「クラフト」と学習的な内容である「教育講話」の2つの内容を1コマの中で行う工夫があった。

(3) 成人教育推進事業

「自分の地域は自分でつくる！地域支援づくり事業」「女性セミナー」「男性セミナー」
「ながうら遊学塾」「お正月飾りづくり講習会」

○主な学習内容

地域支援づくり事業：溜まり場（全14回）の実施

女性セミナー：運動、調理実習、睡眠についての学習他

男性セミナー：ニュースポーツ、調理実習、カントリーダンス他

ながうら遊学塾：運動、調理実習、消費生活など多分野の学習

お正月飾りづくり講習会：正月飾り作成講座

○成果

男性セミナーでは仲間づくりが目的であるため、軽スポーツ（インドア・ローン・ボウルズ）や調理実習などを通じて参加者同士の交流を図った。なかでも最終回に行ったそば打ちは大変好評だった。

女性セミナーでは、運動、料理、生活に関する講座に取り組み、講座生の交流を図った。

ながうら遊学塾では、ヤマサ醤油工場見学や(株)明治を講師に招いた調理実習など、楽しみながら学ぶをテーマに各講座に取り組んだ。講座生は学習意欲が高く、話題性のあるテーマを取り上げることで学習内容の充実を図った。

○課題

成人教育推進事業に限定されないが、各事業の整理が求められている。

(4) 高齢者いきがい促進事業

「長浦さわやかスクール」

○主な学習内容

レクリエーション、芸能発表会、消費者講座、交通防犯講話 他

○成果

市担当職員と木更津警察による交通防犯講話や、県消費者センターによる消費者講座など生活に役立つ知識に触れる機会を提供した。また、グランドゴルフ大会等では講座の参加者からいきいきとした笑顔が見られ、心豊かで生きがいのある高齢期を過ごすという講座の目的を達成できた。引き続き、生きがい促進のため事業を展開したい。

○課題

不参加が多かった講座については原因などを精査し、参加しやすい環境づくりを行う必要がある。

(6) 公民館地域連携推進事業

「初級パソコン講座」

○主な学習内容

初級パソコン講座：ワード操作講習

○成果

初級パソコン講座では、ちらしづくりを通じワードの基本操作を学習した。

○課題

今年度で終了する初級パソコン講座であるが、高齢者であっても、情報化社会では、最低限の知識は必要であるため、何らかの形で情報教育に関する学習機会を提供していく必要がある。

令和元年度長浦公民館事業実施状況報告

令和2年1月31日現在

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度対象・ 延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数
1	目標1① (ア)地域 で子どもを 守る体制 づくり	青少年健 全育成事 業	長浦地区住民会議 (ながうら青空の会) 活動	通年	長浦地区各種団 体19団体	通年 19団体
2			青少年相談員支部 活動	通年	長浦支部青少年 相談員22人	通年 22団体
3			子ども会育成会支 部活動	通年	単位子ども会 4団体	通年 4団体
4			通学合宿	9月29日～ 10月1日 (1回)	中止	9月24日～ 9月26日 (2泊3日)
5	目標1② (ア)家庭 の教育力 向上のた めの支援	家庭教育 総合推進 事業	幼児家庭教育学級	6月～12月 (全7回うち2 回中止)	2歳から小学校就 学前の幼児を持 つ保護者18人 (合同講演会除く)	5回 28人
6			地域家庭教育学級	6月～12月 (全7回)	長浦・蔵波地区の 小学生を持つ保 護者133人(合同 講演会除く)	7回 140人
7			中学校家庭教育学 級	6月～2月 (全10回)	長浦・蔵波地区の 中学生を持つ保 護者123人(合 同講演会除く)	5回×2校 長浦 88人 蔵波 81人
8	目標1③ (ア)公民 館におけ る青少年 事業の充 実	青少年教 育推進事 業	わんぱく教室	5月～12月 (全8回)	長浦小・蔵波小の 4～6年生 94人	8回 184人
9			長浦ジュニアお琴・ 尺八教室	5月～2月 (全14回)	長浦小・蔵波小・ 昭和小・奈良輪小 の4～6年生 197人	14回 208人
10	成人式			1月12日	H11.4.2～12.4.1 に生まれた長浦・ 蔵波地区の新成 人 長浦71人 蔵 波118人	1月13日 長浦 86人 蔵波 117人
11	目標2① (イ)社会 教育関係 団体の活 動への支 援	利用者懇談会		2月28日 1回	各種団体、サー クル	2月28日 1回 56団体
12	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域 と連携し た公民館 活動の充 実	社会教育推進員活動		通年	社会教育推進員 10人	通年 社会教育推 進員10人
13		公民館地 域連携推 進事業	初級パソコン講座	1月20日 ～24日 (全5回)	市内在住・在勤の 成人75人	5回 100人
14		まち・ひと・ しごと創生 関連事業	自分の地域は自分 でつくる！地域支 援づくり講習会	未定	中止	中止 -

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度対象・ 延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
15	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	成人教育 推進事業	女性セミナー	5月～2月 (全8回)	長浦地区の成人 女性 177人	8回	231人
16			男性セミナー	6月～12月 (全6回)	市内在住・在勤成 人男性 33人	6回	67人
17			ながうら遊学塾	5月～2月 (全7回)	成人(長浦地区優 先) 186人	-	-
18			お正月飾りづくり講 習会	12月 (全1回)	市内在住・在勤成 人11人	1回	23人
19	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	高齢者い きがい促 進事業	長浦さわやかスクー ル(高齢者教室)	5月～2月 10回	長浦地区の60歳 以上の方 394人	10回	550人
20			長浦公民館まつり	11月23日 11月24日 (2日間)	932点 5796人	11月10日 11月11日 (2日間)	1076点 8500人
21	目標2③ (ア)文化・ 芸術振興 のための 市民活動 の支援	各種行事 推進事業	ロビー展示	通年	15団体 212点	4月25日～ 3月31日	16団体 321点

④ 令和元年度根形公民館事業の成果と課題

(1) 青少年教育推進事業

「花まる絵画教室」「子ども絵画教室」「ねがたオープンキャンパス（ねこまる）」

○主な学習内容

花まる絵画教室：水彩画制作

子ども絵画教室：水彩画制作

ねがたオープンキャンパス（ねこまる）

通常版：勉強や遊び、パフォーマンス体験（上総シニアアンサンブル、袖高書道部、音楽部）、消防体験 他

宿泊版：竹鉄砲による水遊び、流しそうめん、花火、まくら投げ 他

○成果

花まる絵画教室・子ども絵画教室では、公民館まつりで子ども達の作品を発表する場を設けた。花まる絵画教室は、定員16名に対し、20名の申込みがあるなど、人気を博している。（今年度は、申込者20名全員を教室生とした。）子ども絵画教室は、定員16名に対し、17名の申込みがあり、全員を教室生とした。

ねがたオープンキャンパス（ねこまる）は、地元の小学校児童とN.O.C（主に18歳以上の根形地区に関係する若者たちのグループ）及び登録サークルや地域の大人が夏休みに勉強や遊びをとおして交流を図ることができた。通常版では、根形公民館登録サークルの上総シニアアンサンブルが演奏会を開くなど、活動の幅が広がってきている。また、宿泊版では、主に君津市で活動するミライキカクの若者たちの協力を今年度も得ることができた。N.O.Cもメンバーが増えてきており、若者たちの交流の輪が年々広がってきている。

○課題

花まる絵画教室についてはここ数年、抽選で参加者を決定している。今年度については、講師と相談のうえ、申込者20名を教室生として全員受け入れている。今後、講師及び社会教育推進員に相談したうえで、募集人数や、花まる絵画教室を2回に分けて実施するかどうかも次年度に向けて検討したい。

子ども絵画教室については、参加者の多くが4年生である。また、平岡小学校以外の市内全小学校から参加している。異学年同士でテーブルに座るといった工夫をするなど、講座の目標の1つである仲間づくりに寄与したい。

ねがたオープンキャンパス（ねこまる）について、N.O.C特定メンバーに負担が集中してしまったので、N.O.C内の組織・役割を再考する必要がある。

(2) 家庭教育総合推進事業

「乳幼児家庭教育学級」「地域家庭教育学級」「中学校家庭教育学級」

○主な学習内容

乳幼児家教：父親の参加を促すため、家族で参加する農村体験・写真講座・プロの演奏家によるファミリーコンサート・父親であることを楽しむための講座・移動教室（千葉市動物公園）・父親と子ども向けのエコバックづくり・未来のプレゼントアルバムづくり

地域家庭教育学級：調理実習・移動教室（崎陽軒横浜工場見学） 他

中学校家庭教育学級：調理実習・移動教室（チームラボプラネッツTOKYO（豊洲）） 他
ワーキングママ支援講座：市の保育の状況について・生涯のお金を含めたライフプラン・ママと子どもの性格の違いについて・子どもの小さなSOSに気づくこと、親子のコミュニケーション、ママのモチベーションアップの方法（全4回）

○成果

乳幼児家庭教育学級は、昨年度から市民会館との合同開催とし、年間11回（うち2回は台風により中止）と学級回数を増加して開催したことで、学級生同士が顔を合わせる機会が増え、より交流が深まっているように感じた。また、対象を0歳からと拡大したことで、口コミ等で参加者が開催中に増加していった。さらに、今年度は、父親の家庭教育への意識の向上及び、社会参加をするきっかけづくりとして、父親と子どものみを対象とした講座を2回実施し、見込みよりも多くの父親の参加が見られ、意識の高さが伺えた。

地域家庭教育学級は、今年度も小学校PTA文化研修委員と協働で講座を企画するとともに、中学校家庭教育学級と合同で実施した。

中学校家庭教育学級は、中学校PTAに委託し、地域家庭教育学級と合同で実施した。地域家庭教育学級及び中学校家庭教育学級を合同で実施していることで、参加した保護者は、より幅広い世代間で交流でき、親睦を深めている。また、調理実習では、子どもたちの食につながる学習ができ、今後活用していきたいとの声があった。

ワーキングママ支援講座は、今年度新規講座であったが、定員20名を超え22名の申し込みがあり、現代の忙しい家庭環境の中で、頑張っている子育てをしている母親の背中を押すことで、よりよい家庭教育が行えるよう支援ができたものと感じる。

○課題

乳幼児家庭教育学級は、対象を0歳児からと拡大しており、今年度は、25組の家族の参加があり、子どもは33人、うち2歳未満は14人であった。保護者のみで活動したい、リフレッシュしたいとの要望もあるが、2歳未満は保育ができないため、基本は保護者と一緒に活動できる内容とした。今後、出席率が上がると、多くの家族が参加できる内容に限られてきてしまうことが考えられるため、家庭教育力の向上という学級の

目的から定員を少なくしていくことも検討していく必要がある。

地域家庭教育学級及び中学校家庭教育学級は、第1回の開催通知で日程を事前に示したが、結果として、参加者の伸びにつながらなかった。参加者の満足度は高いが、多くの方々に参加してもらうよう、学校で講座を実施するといった工夫もしていきたい。

ワーキングママ支援講座は、今年度は保育の現状などの内容を取り入れたことから、対象を、これから働く意思のある母親（既に働いている母親も可）とし、開催日を平日にして実施したが、より多くの母親に対して支援を行いたいことから、開催日を土日にするものの検討も必要である。

（3）成人教育推進事業

「成人絵画教室」「地域再発見講座」

○主な学習内容

成人絵画教室：静物写生（野菜・果物・花瓶・花等）・自画像・クロッキー・風景写生（袖ヶ浦公園）・石膏デッサン・移動教室（千葉県立美術館）

地域再発見講座：施設見学（大寺浄水場、袖ヶ浦終末処理場）、講義（袖ヶ浦市の都市計画について）、移動教室（朝比奈切通し、アクアラインバックヤードツアー）、房総の中世史（千葉県文書館出前講座） 他

○成果

成人絵画教室は、講座生14名で、水彩・油彩などの基礎を学び、公民館まつり及びサークル作品展での展示作品制作を中心に活動した。昨年度に教室で取り組んだ、郷土博物館周辺の風景写生で、旧進藤家住宅や古代住居、上池等の作品を、郷土博物館アクアラインなるほど館のロビーで展示を行い、4月26日（金）～6月9日（日）の会期中に2,690人の来館があり、学習の成果として地域に還元することができた。さらに、教室生の作品創作意欲の向上や、やりがいにもつながった。

地域再発見講座は、講座生23名でスタートし、内容によっては、随時参加者を募った。今年度は「まちの成り立ちを見直そう」をテーマに、袖ヶ浦市職員を講師とした袖ヶ浦市に関する講義、また、市内及び袖ヶ浦市に関連する施設見学、“過去”から学ぶ袖ヶ浦市、といった内容を学習した。

○課題

成人絵画教室は、現在根形公民館で活動する絵画サークルは5団体で、「成人絵画教室」の卒業生がサークルに入ること、または、自主的な活動が引き続き行えるようにバックアップをしていく必要がある。

地域再発見講座は、多種多様な方々が多く、講座生全員の満足を得るのは難しいと感じた。

については、講座生のニーズを把握するため、アンケートを各回実施するなど、講座生

とのコミュニケーションを積極的に図っていきたい。

また、学習してきた内容を講座生自身が成果として発表する機会づくりを検討したい。

(4) 高齢者いきがい促進事業

「根形ニコニコ教室」

○主な学習内容

軽スポーツ（健康体操、3B体操）、健康講座（夏の健康管理）、薬剤師による講話、移動教室（南房総方面）、消費者教室（特殊詐欺に関する講話）、映画鑑賞会、お楽しみ演芸会

○成果

健康講座は、毎年、根形地区を担当する保健師を講師として実施しているため、参加者一人ひとりの状況を把握している。そのため、相互の距離が近く、真剣に、かつ、楽しく学習する機会となっている。また、軽スポーツを取り入れ、運動機能低下の防止に役立てる機会とした。

○課題

新たな参加者が、わずかではあるが増えているものの、高齢化により従来からの参加者について、参加する機会が少なくなっている。教室生が根形地区全域から参加するまでには至っていないので、参加者の無い地区について、声掛けの必要がある。

(5) 各種行事推進事業

「サークル作品展」

○主な内容

芸術系の根形公民館登録サークルと成人絵画教室・陶芸教室による絵画・陶芸・書・生け花・表装の作品展。

○成果

サークル活動と成人絵画教室・陶芸教室の1年間の成果発表として3月に実施している。サークル代表者による実行委員会が主催となり、会場設営・展示作業・当日の受付等をサークルの会員が担当する。参加者の技術向上とこれまでの活動が周知されたことにより、来場者も増加している。今年度は3月14日（土）～3月22日（日）に開催する。

○課題

現在事務局として公民館が負担している広報活動について、さらに広く周知するために、実行委員に積極的に活動していただく必要を感じる。

(6) 地域づくり支援事業

「ローリングストックと災害時調理のテクニック講座」「下新田区との合同防災講座」

「登録サークル等を講師とした講座」

○主な学習内容

ローリングストックと災害時調理のテクニック講座：ローリングストックや災害時の調理について研究している、昭和女子大学現代ビジネス研究所食プロジェクトのメンバーを講師に迎え、全4回のうち前半2回を、講師による講義及び実習、後半2回を前半で学んだことを生かし、講座生自らが、災害時に要配慮者となる高齢者や小さな子どもでも食べることのできる災害時調理のレシピについて考案し、実際に調理、レシピ集として発行した。

下新田区との合同防災講座：避難所についての講義や体験、簡易備蓄倉庫内の見学（講師：危機管理課職員）

登録サークルを講師とした講座：出張演奏会、書き初め教室

○成果

ローリングストックと災害時調理のテクニック講座では、今までの非常食の備蓄という考えから、普段の食品等を使いながら備蓄を行うローリングストックについて学び、講座生の意識改革をすることができた。また、災害時に電気・ガス・水道が使えなくなった場合の調理方法について、様々なレシピを調理することで、そのテクニックを身に付けることができた。さらに、ただ学ぶだけで終わるのではなく、学んだことから、講座生自らが、災害時要配慮者向けのレシピを考案し、試行錯誤をしながら、3班で11種類ものレシピを完成させ、レシピ集にまとめ、市のホームページや館報で公開するところまでを実施することができた。講座生の中には、学んだ知識を地域に周知する活動も見られ、家庭教育学級で若い保護者向けや、地域での防災訓練等で、災害時調理について今度は教える側で地域への還元を図っている。

下新田区との合同防災講座は、前年度に区会に参加し、区長さんをはじめ区役員の賛同を得て実施した。危機管理課職員の講義や、避難所の実態、簡易備蓄倉庫の見学をとおして、防災意識の向上に寄与するとともに、公民館と地域との関係構築につながった。

登録サークル等を講師とした講座は、「出張演奏会」と「書き初め教室」を実施した。

出張演奏会は、根形保育所で実施し、上総シニアアンサンブルが園児向けにクリスマスソング等を演奏した。音楽に合わせて歌ったり、踊ったりする子どもも多く、「楽しかった！また来て欲しい」という声が子どもたちから挙がり、上総シニアアンサンブルからは、子どもたちからたくさん元気をもらった。今後もこういった地域と交流していきたいとの声が挙がった。

書き初め教室は、対象を小学校3年生から6年生とし、根形公民館登録サークルの根形書友会が講師となり、子どもたちを指導した。「宿題が終わり良かった」といった声が

挙がるなど、子どもたちのニーズが高い事業である。また、講師からも次年度も実施したいといった声が挙がるなど、「Win-Win」の関係になっている。

○課題

地域づくり推進事業は、次年度、地域人材育成講座へ移行する。より地域と公民館とのつながりを重視し、地域住民の声を聴きながら、地域・社会・現代的な課題を取り上げ、人材を育成していきながら課題の解決を図れる内容を検討していく必要がある。

令和元年度根形公民館事業実施状況報告

令和2年1月31日現在

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
1	目標1① (ア)地域 で子どもを 守る体制 づくり	青少年健 全育成事 業	地区住民会議 (根っ子の会)活動	通年	根形地区の各種団体 20団体等	通年	20団体等
2			青少年相談員支部 活動	通年	青少年相談員根形支 部 8人	通年	8人
3			子ども会育成会支 部活動	通年	単位子ども会 6団体	通年	6団体
4	目標1② (ア)家庭 の教育力 向上のた めの支援	家庭教育 総合推進 事業	乳幼児家庭教育学級 (うたたねハッ ピーくらぶ)(市民会 館と合同)	6月～1月 (全11回) (2回中止)	0歳から就学前の幼児 を持つ保護者 25組 95人(合同講演会除)	11回 (1回中止)	116人
5			地域家庭教育学級	5月～12月 (全5回)	根形地区の小学生の 保護者 47人	5回	45人
6			中学校家庭教育学級	5月～12月 (全5回)	根形中学校生徒の保 護者 58人	5回	48人
7			ワーキングママ支援 講座	8月～10月 (全4回)	これから働くことを考 えている(既に働いて いても可)母親 48人	—	—
8	目標1③ (ア)公民 館におけ る青少 年事業の充 実	青少年教 育推進事 業	花まる絵画教室	6月～12月 (全6回)	市内小学1年～3年生 104人	6回	98人
9			子ども絵画教室	5月～2月 (全9回)	市内小学4年～6年生 127人	9回	132人
10			ねがたオープンキャ ンパス (ねこまる)	①8月7日 ～9日 ②8月24日 ～25日 計5日間	N.O.C、根形地区の 青少年及び登録サー クル会員等 492人	4回	305人
11	成人式		1月12日	H11.4.2～H12.4.1に 生まれた根形地区の 新成人 44人	1月13日	51人	
12	目標2① (イ)社会 教育関係 団体の活 動への支 援	利用者懇談会	3月3日	定期利用団体	1回	31団体	
13	社会教育推進員活動		通年	社会教育推進員 10人	通年	10人	
14	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	地域づくり 推進事業	ローリングストックと 災害時調理のテク ニック講座	6月 (全4回)	高校生以上 69人	—	—
15			下新田区との合同 防災講座	5月26日	下新田区住民 35人	—	—
16			出張演奏会	11月28日	根形保育所園児 100 人	1回	117人
17			書き初め教室	12月23日	根形小学校3年生から 6年生 19人	1回	15人

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
18	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	成人教育 推進事業	成人絵画教室	5月～2月 (全10回)	市内在住・在勤成人 93人	10回	158人
19			地域再発見講座	6月～2月 (全9回)	市内在住・在勤成人 132人	6回	77人
20	目標2③ (ア)文化・ 芸術振興 のための 市民活動 の支援	高齢者い きがい促 進事業	根形ニコニコ教室 (高齢者教室)	5月～2月 (全10回)	根形地区の60歳以上 の男女 308人	10回	316人
21		各種行事 推進事業	第33回根形公民館 まつり	11月2日 11月3日 (2日間)	市民 8,063人	11月3日 11月4日 (2日間)	8,503人
22			ねがたファミリーコン サート	8月3日	(乳)幼児家庭教育学 級生・高齢者教室生 106人	1回	151人
23			ロビー展示	通年	文化協会加盟団体等 12団体	通年	15団体
24	根形公民館サークル 作品展		3月14日～ 3月22日	根形公民館で活動す る美術・工芸関係サー クル等 23団体	3月16日～ 3月24日	24団体	

⑤ 令和元年度平岡公民館事業の成果と課題

(1) 青少年教育推進事業

「ひらおか子ども教室」

○主な学習内容

スライム作り、川遊び、プラネタリウム鑑賞、きらきらミラーキューブ作り、書き初め教室、桜餅づくり

○成果

スライム作り、川遊び、プラネタリウム鑑賞など、普段触れる機会が少ない体験学習を実施したことで、参加児童に新たな興味や発見を提供することができた。

例年、参加人数が少ないことが課題となっていたが、平岡小学校の保護者でもある担当社会教育推進員と実施内容を検討したり、学校で直接チラシを配布するなどの取組をしたため、参加人数を増やすことができた。

○課題

参加対象児童が少ない平岡地区だが、今後も推進員の意見を聞きながら、子どもたちが参加したいと思える教室を実施していきたい。

(2) 家庭教育総合推進事業

「幼児家庭教育学級（平川公民館と合同開催）」「地域家庭教育学級」

○主な学習内容

幼児家庭教育学級：羊毛フェルト、茶話会・アルバムカフェ、絵本の読み聞かせ、移動教室、クリスマス料理・クリスマス演奏会など

地域家庭教育学級：5館合同講演会（テーマ：子どものやる気を引き出す親の役割）、移動教室、「おなか元気教室」、ハーバリウムづくり、調理実習

○成果

幼児家庭教育学級は、土日開催の講座を実施して父親の参加を働きかけたり、図書館事業（おはなし会）と共催したり、登録サークルにコンサートの開催依頼をするなど内容を工夫しながら実施した。移動教室では、小旅行気分でも和気あいあいとした雰囲気の中、リフレッシュでき、有意義な時間を提供することができた。

地域家庭教育学級は、平岡小学校PTA文化研修委員との連携をこれまで以上に図ることにより、保護者が求めている内容を講座に盛り込み出席者を増やすことができた。

○課題

幼児家庭教育学級は、一人あたりの参加回数が少なく、学習効果や仲間づくりを深めることが難しいため、更なる実施方法や内容の検討が必要になっている。

地域家庭教育学級は、参加人数が少なく昨年度からは学級生制度を廃止し全保護者を

対象としてチラシを配布し人数の増加を図り、内容についてもPTA文化研修委員と協議し、保護者が求めている内容としているところであるが、参加人数は微増に留まっている。参加者拡大も難しい状況となっているため、実施方法等について検討が必要である。

(3) 成人教育推進事業

「国際理解セミナー」「わくわく女性倶楽部」「ひらおかハッピータイム(地域交流事業)」「男性のための料理教室」

○主な学習内容

国際理解セミナー：コロンビアでの生活、インドネシアの独立運動、台湾の観光と食生活、ザンビアの生活とストリートで暮らす子どもたち、ミャンマーの食生活

わくわく女性倶楽部：歌声広場、減塩について、消費者知識、ディンプルアート、骨ナビ、移動教室、インフルエンザ予防、ハーモニー体操

ひらおかハッピータイム(地域交流事業)：ボッチャと流しそうめん

男性のための料理教室：餃子(中止)、ピザと簡単スイーツ

○成果

国際理解セミナーは、様々な分野で活動している講師を招き、調理実習など体験型講座も取り入れた。私たちが知らない外国の生活や文化について学び、国際理解をより深めるため、受講生の興味・関心に沿った内容を提供することができた。今年度は、安定した受講生を獲得し、講座生の拡大につなげることができた。

わくわく女性倶楽部は、「ひらおかシニアセミナー」と合同で開催するなど、各講座生の交流を図ったほか、「健康」をテーマとしつつ、物づくり講座や移動教室など参加者の意見を取り入れることにより、様々な学習内容を提供することができた。

ひらおかハッピータイム(地域交流事業)は、平岡地区の世代間交流を図るため、昨年に引き続き比較的子どもの参加が多く見込まれる夏休み期間中に実施した。地域の子どもから高齢者までが参加し、ボッチャで汗を流した後、参加者全員で流しそうめんとかき氷を実施した。普段、核家族で暮らす子どもたちも、あまり接する機会がない高齢者と交流することができ、郷土愛を育むための時間を提供することができた。

男性のための料理教室は、今年度は2回計画したが、初回は台風のため中止とした。第2回は、簡単に作れる米粉を使ったピザとスイーツをメニューとし、料理の経験が少ない男性を対象に、食事や健康への関心を高めてもらう機会を提供することができた。また、粉ものの献立であったため、包丁使いで苦勞することなく、楽しみながら料理を行うことができ、家庭でもアレンジして料理をしたという報告をいただくことができた。

○課題

国際理解セミナーは、市民のニーズを把握し、市民が興味を持っている国(地域)や学習分野についての検討が必要である。

わくわく女性倶楽部は、若い世代の参加者が少なく講座生の高齢化が懸念されている。また、講座生の高齢化によりシニアセミナーとのすみ分けが難しくなっている。今後の講座の在り方について検討していきたい。

ひらおかハッピータイム（地域交流事業）は、流しそうめんを定着させ、より多くの地域の方に参加していただき、子どもと高齢者の交流を図ることができる内容について検討が必要である。

男性のための料理教室は、参加者は楽しんで料理している様子がうかがえたが、自主的な参加がないため、公民館利用者に声をかけて参加をお願いしているような状況である。参加者からは、今後も講座開催を要望するという意見をいただいております、自主的参加が促せるよう日常生活の自立支援や、家族のために料理をすることができるような内容について検討したい。

（４）高齢者いきがい促進事業

「ひらおかシニアセミナー」

○主な学習内容

歌声広場、健康講座、ボッチャ、交通安全教室、ウォーキング、移動教室、料理教室、映画鑑賞会、悪質商法

○成果

全9回のうち1回を「わくわく女性倶楽部」と合同で開催し、各講座生の交流を図りつつ、バラエティーに富んだ学習機会を提供した。歌声広場・ボッチャ・ウォーキングなどの体験型の学習内容も取り入れて、参加者が興味を持てる学習機会を提供したことで安定的に参加者が多い。

○課題

講座生の高齢化・減少化に加えて、男性学級生の参加が少ない。新たな講座生の確保と男性学級生の増加に努める必要がある。

（５）各種行事推進事業

「サークル発表会」

○主な内容

芸能サークル発表（舞踊、オカリナ演奏、社交ダンス）

○成果

文化・スポーツまつり以外に芸能サークルの発表機会を提供するとともに、学習意欲の向上を図ることができた。

○課題

平岡公民館登録サークル23団体のうち、参加団体が3団体と非常に少なくなっている。また、観覧者の大半が参加サークルの関係者となっており一般の観覧者がほとんどいない状態となっている。参加サークルからは盛り上がりには欠けるとの意見もあり、来年度以降、開催の是非についても含め、登録サークルと協議していきたい。

(6) 公民館地域連携推進事業

「防災に関する講座」「スマホ講座」

○主な学習内容

防災に関する講座：台風の際に役立つ知識など 2/29開催予定

スマホ講座：シニア向けスマートフォン教室（高齢者対象）3/11開催予定

令和元年度平岡公民館事業実施状況報告

令和2年1月31日現在

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
1	目標1① (ア)地域 で子どもを 守る体制 づくり	青少年健 育成事 業	地区住民会議(名 幸ヶ丘の会)活動	通年	平岡地区各種団体 18団体	通年	18団体
2			青少年相談員支部 活動	通年	平岡支部青少年相談 員 11人	通年	11人
3			子ども会育成会支 部活動	通年	単位子ども会 10団 体	通年	9団体
4			通学合宿	7月7日～ 7月9日 (2泊3日)	平岡地区の小学生 23人	7月8日～ 7月10日 (2泊3日)	27人
5	目標1② (ア)家庭 の教育力 向上のた めの支援	家庭教育 総合推 進事 業	幼児家庭教育学級 (すまいる学級)(平 川公民館と合同)	6月～12月 (全8回) 1回中止(台風)	2歳から就学前の幼児 を持つ保護者 33人 (16組)	8回	66人
6			地域家庭教育学級	6月～12月 (全5回)	平岡小学校児童の保 護者 106人	6回	97人
7	目標1③ (ア)公民 館におけ る青年 事業の充 実	青少年教 育推 進事 業	ひらおか子ども教室	8月～2月 (全6回)	中富・平岡地区の小 学生 97人	6回	53人
8	成人式		1月12日	H11.4.2～H12.4.1に 生まれた平川地区の 新成人 92人	1月13日	101人	
9	目標2① (イ)社会 教育関係 団体の活 動への支 援	利用者懇談会	3月5日 1回	定期利用団体	1回	26団体	
10	社会教育推進員活動		通年	社会教育推進員 10 人	通年	10人	
11	目標2② (ア)市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	公民館地 域連携推 進事業	防災に関する講座	2月29日 (全1回)	平岡地区の住民	1回	48人
			初級パソコン講座 (スマホ講座)	3月11日 (全1回)	市内在住・在勤の70 歳くらいまでの方	1回	10人
12	成人教育 推進事業		わくわく女性倶楽部	5月～1月 (全8回)	平岡地区の成人女性 126人	8回	127人
13			国際理解セミナー	8月～12月 (全5回)	市内在住・在勤一般 成人 136人	5回	82人
14			男性のための料理 教室	10月・12月 (全2回) 1回中止(台風)	平岡地区の成人男性 14人	1回	14人
15			ひらおかハッピータ イム (世代間交流事業)	8月21日 (全1回)	子どもから大人まで 16人	1回	11人

No.	事業名		令和元年度 時期・回数	令和元年度 対象・延べ人数	平成30年度 実施回数	平成30年度 延べ人数	
16	目標 2 ② (ア) 市民 への学習 機会の提 供と地域と 連携した 公民館活 動の充実	高齢者い まが促 進事業	ひらおかシニアセ ミナー(高齢者教室)	5月～2月 (全9回)	平岡地区の60歳以上 の方 151人	9回	139人
17			平岡公民館文化・ス ポーツまつり	11月2日 11月3日 (2日間)	市民 7,849人	11月3日 11月4日 (2日間)	7,640人
18	目標 2 ③ (ア) 文化・ 芸術振興 のための 市民活動 の支援	各種行事 推進事業	ロビー展示	通年	文化協会加盟団体等 10団体	通年	9団体
19			サークル発表会	6月22日 1回	定期利用団体地域住 民 33人	1回	45人

令和２年度市民会館・公民館経営方針及び重点施策（案）

1. 経営方針

市民会館・公民館は、第２期教育ビジョンの基本目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の実現に向け、「地域」「子ども」「市民」の視点から、「学び つながり 支えあう教育」を推進します。

地域課題や多様で複雑な社会課題などに、より効果的に対応するため、また、「袖ヶ浦市みんなが輝く協働のまちづくり条例」の趣旨に沿い、市民、社会教育推進員、社会教育関係団体や地域団体などの各種団体、NPO、学校、行政、企業等との幅広い連携・協働により、市民の生活や暮らしを豊かにする学習活動を展開します。

また、公民館には、地域活性化・まちづくりの拠点、地域の防災拠点などとしての役割も強く期待されるようになっており、住民参加による課題解決や地域づくりの担い手の育成に向けて、住民の学習と活動を支援する機能の一層の強化を図ります。

2. 重点施策

市民会館・公民館は、「地域」「子ども」「市民」に対し今後取り組まなければならない目標を定め、これを遂行するための施策の方向性を重点施策として社会教育の充実・発展を図ります。

目標１：地域全体で子どもを育む環境づくりの推進

①学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図ります

(ア)地域で子どもを守る体制づくり

地域で子どもの安全を守るため、子ども安全パトロールなどの取り組みを行う地区住民会議及び青少年相談員の活動を支援します。

(イ)子どもたちの体験・交流活動等の場づくり

子どもたちの異年齢による体験・交流活動を行う青少年相談員、子ども会育成会、地区住民会議及び社会教育関係団体等の諸活動を支援します。

②家庭の教育力の向上を図ります

(ア)家庭の教育力向上のための支援

子育てに関する学習を通して、同じ世代の子どもを持つ保護者の交流を促進することを目的に、子どもの発達段階に応じた家庭教育学級を開催します。

さらに、より多くの保護者への学習機会の提供、併せて家庭教育学級の広報活動の一つとして、子育てに関する合同講演会を公開講座として引き続き開催します。

また、関係機関・団体との連携・協働を促進するとともに、学習内容の充実と子育てに関する情報の提供に努めます。

平川公民館と平岡公民館では、「幼児家庭教育学級」を合同で、市民会館と根形公民館では、「乳幼児家庭教育学級」を合同で、引き続き開催して参加者同士の交流を進めます。

根形公民館では、昨年度に引き続き、「ワーキングママ支援講座」を開催し、働くことを考えている方や、働いている方を対象とした学習機会を提供します。

(イ) 子育て支援体制の充実

ホームページや館報の活用のほか、公民館まつり等で紹介コーナーを設けるなどにより、家庭教育学級の活動紹介や子育てサークル、関係機関・団体等に関する情報提供の充実を図ります。

③地域の拠点づくりを推進します

(ア) 公民館における青少年事業の充実

子どもたちに不足しているといわれている自然体験・社会体験などの機会を提供することにより、集団での活動などをおして、自ら学び、自ら考え、問題を解決する力や協調性・思いやりなど「生きる力」を育みます。

市民会館では、「子どもチャレンジ教室」を、長浦公民館では「わんぱく教室」を、平川公民館では、「子どもクラブ」を、平岡公民館では「ひらおか子ども教室」を引き続き地域の小学生を対象に開催し、様々な体験活動などの機会を提供します。

根形公民館では、小学生を対象に「花まる絵画教室（低学年）」や「子ども絵画教室（高学年）」を実施し、子どもたちの豊かな感性を育むとともに、積極的にその活動を周知します。

また、地域の若者と協働で、将来、地域を担う仲間となる青少年が集い、交流し、育ちあう場所となる「ねがたオープンキャンパス（ねこまる）」を開催します。

(イ) 地区住民会議への支援

通学合宿・デイキャンプ・世代間交流事業や子ども安全パトロール等、地域で青少年の健全育成に取り組む地区住民会議への支援を引き続き実施します。

平川公民館では、中富ふれあいの会の活動を支援し、青少年の健全育成を図ります。また、久留里線活性化プロジェクトに参加して、地域づくりをすすめます。

また、長浦公民館では、長浦地区住民会議ながうら青空の会とともに「自分の地域は自分でつくる！地域支援づくり事業」を通して、地域住民自らが生活課題をはじめとする地域課題に取り組みやすくする仕組みづくりの支援を継続して実施します。

平岡公民館では、「地域の子どもは地域で育む」という考えのもと、平岡地区住民会議「名幸ヶ丘の会」の活動を引き続き支援します。

目標2：市民一人ひとりの生涯を通じた学習の支援

①生涯学習推進体制の充実を図ります

(ア)生涯学習に関する情報の収集と活用の推進

生涯学習に関する情報を収集し、学習相談への対応を図ります。また、広報そでがうらやホームページ、館報等により、公民館活動や学習情報の広報を積極的に進めます。

(イ)社会教育関係団体の活動への支援

利用者懇談会を開催し、市民会館・公民館の経営方針や事業運営についての理解を図るとともに、公民館登録サークル等社会教育関係団体の活性化と自主的な運営を支えるための支援を行います。

また、体験会実施の働きかけや公民館講座等の講師を積極的に依頼するとともに、各種行事への参加を呼びかけ、サークルの活性化に向けた取り組みを支援します。

②人と人をつなぐ社会教育の充実を図ります

(ア)市民への学習機会の提供と地域と連携した公民館活動の充実

市民の幅広い学習ニーズに応える社会教育の拠点として、社会教育推進員等の参画により、それぞれの地域の特性に応じた学級・講座を開催します。また、地域の活動拠点として、関係行政機関や地域の各種団体、公民館登録サークル等と連携・協働を図るとともに、公民館運営審議会の意見を聴きながら引き続き事業運営にあたります。

市民会館では、「さわやかセミナー（働きざかりの男塾）」を社会教育推進員の企画により引き続き実施するなかで、現役世代の男性の地域デビューと公民館の利用の促進に資する事業方法等について検討します。

平川公民館では、今日的な問題や地域の課題をテーマにした講座を開催して、幅広く学習機会を提供します。

長浦公民館では、「自分の地域は自分でつくる！地域支援づくり事業」として、長浦地区住民会議ながうら青空の会と共催し、公民館で地域住民が気軽に交流できる「溜まり場」などを開催し、後継者となる人材の掘り起こしをはじめとする地域支援の仕組みづくりについて引き続き検証するものです。

根形公民館では、昨年度新たに取り組んだ、地域の課題や生活上の課題、現代的課題に今まで以上に積極的に取り組み、学習者自身が課題を認識し、住民主体の活動へ展開を図る「地域づくり推進事業」をさらに充実させることを目的とした「地域人材育成講座」へ移行します。

平岡公民館では、地域の子どもからお年寄りまでの方たちが一緒になって楽しい時間を過ごすことを目的として、「ひらおかハッピータイム（世代間交流事業）」を

昨年度に引き続き実施します。

(イ)利用者ニーズに沿った施設の改修と整備

市民が利用しやすく安心して安全な施設を提供するために安全点検日を設け、施設の定期的な安全点検を実施し適切な維持管理に努めます。

また、根形公民館では、エレベーターの改修工事を実施するなど、来館者の安全確保を図ります。

災害時には地域住民の避難所、福祉避難所としての機能を果たすため、その円滑な運営に向けて、各館の施設・設備状況に応じた避難所運営マニュアルの作成に取り組めます。

③地域に根ざす文化・芸術活動を推進します

(ア)文化・芸術振興のための市民活動の支援

市民会館・公民館では、市民だれもが郷土の芸術に親しみながら教養を高め、創造することを楽しむとともに、社会教育関係団体等の発表機会や交流の場を提供します。

さらに、文化芸術活動の振興として、社会教育関係団体等との共催による文化・芸術事業を展開します。

市民会館では、引き続き音楽協会との共催による「市民音楽フェスティバル」と文化協会との共催による「芸能文化まつり」を開催します。

平川公民館では、関係諸団体と連携してロビー展示の充実を図り、学習活動の発表機会の提供をすすめます。

長浦公民館では、わが国の伝統音楽である邦楽を子どもや市民が自ら演奏して楽しむ機会を提供するため「長浦ジュニアお琴・尺八教室」を開催するとともに、音楽協会の団体と連携し、子どもの文化芸術活動の充実と邦楽の継承者育成を図ります。

根形公民館では、実行委員会が主体となり「サークル作品展」を開催し、主催事業や公民館を拠点として活動する芸術・工芸分野のサークルの学習成果を発表する機会とします。

平岡公民館では、ものづくりサークルの作品をロビーに展示する「ロビー展示」を行い、サークルの学習意欲を高めるとともに、学習成果を発表する場を提供します。

目標 3：市民のニーズに応じた市民会館・公民館づくり

①公民館運営審議会の意見の反映

公民館における各種の事業の企画実施や公民館の諸課題について提案をし、公民館運営審議会の意見を反映しながら公民館運営の充実を図ります。

②運営評価への取り組み

「第二期袖ヶ浦市教育ビジョン」に掲げた目標、施策を実現するため各館で行っている各種の事業について、運営・執行状況がどのようなものであったかを点検・評価するため、各年度が終了した後に「施策の取り組み状況」シートを作成し、当該年度の点検・評価を行います。

事業の成果・効果をもとに、課題や対応などを考察し、今後の事業の効果的でよりよい運営・執行に反映していきます。

③職員の資質の向上

公民館職員の資質の向上のため、君津地方公民館連絡協議会などの研修に積極的に参加します。また、各館の事業担当者による会議や研修会等により職員間の情報共有と新任職員への事業運営や施設管理の基本的な知識の習得を図ります。

④公民館施設の利用促進

ロビーなど誰でも利用できる場所をオープンスペースとして開放して、子どもから高齢者までの学習や憩いの場を提供し、公民館施設の利用を促進します。

フリースペースやロビーを、学習スペースとして開放するなどして、子どもの居場所を確保するほか、空室などを授乳等のスペースに提供します。また、酷暑日においてはクールシェアリングを実施するなど、各公民館が地域の住民にとって身近で、人の集まる、地域の拠点としての公民館をめざします。

令和2年度市民会館・公民館主催事業(案)

	市民会館	平川公民館	長浦公民館	根形公民館	平岡公民館
青少年教育推進事業	子どもチャレンジ教室 世代間交流	子どもクラブ 書き初め教室	わんぱく教室 通学合宿 長浦ジュニアお琴尺八教室	子ども絵画教室 花まる絵画教室 ねがたオープンキャンパス	ひらおか子ども教室
家庭教育総合推進事業	乳幼児家庭教育学級(根形と合同) 地域家庭教育学級 中学校家庭教育学級 親業訓練入門講座	幼児家庭教育学級(平岡と合同) 地域家庭教育学級 中学校家庭教育学級	幼児家庭教育学級 地域家庭教育学級 中学校家庭教育学級	乳幼児家庭教育学級(市会と合同) 地域家庭教育学級 中学校家庭教育学級 ワーキングママ支援講座	幼児家庭教育学級(平川と合同) 地域家庭教育学級
成人教育推進事業	女性セミナー さわやかセミナー 舞台コーディネーター養成講座 単発講座	女性セミナー 園芸講座 地域課題解決講座 単発講座	女性セミナー 男性セミナー ながうら遊学塾 お正月飾りづくり講習会	成人絵画教室 地域再発見講座	わくわく女性倶楽部 国際理解セミナー ひらおかハッピータイム 男性のための料理教室
高齢者いきがい促進事業	昭和ふれあい教室 世代間交流(再掲)	うぐいす学級	長浦さわやかスクール	根形ニコニコ教室	ひらおかシニアセミナー
地域人材育成講座	各館の連携により、試行講座の開催及びその検証等を行う担当者ミーティングを開催し、令和3年度から各館での開催を目指す。				
各種行事推進事業	市民会館まつり 市民音楽フェスティバル 芸能文化まつり ロビー展示	公民館まつり ロビー展示	公民館まつり ロビー展示	公民館まつり サークル作品展 ねがたファミリーコンサート ロビー展示	文化・スポーツまつり サークル発表会 ロビー展示
成人式実施事業	成人式	成人式(平岡と合同)	成人式	成人式	成人式(平川と合同)
その他	公民館運営審議会 利用者懇談会 社会教育推進員活動 館報発行・ホームページ更新	公民館運営審議会 利用者懇談会 社会教育推進員活動 館報発行・ホームページ更新	公民館運営審議会 利用者懇談会 社会教育推進員活動 館報発行・ホームページ更新	公民館運営審議会 利用者懇談会 社会教育推進員活動 館報発行・ホームページ更新	公民館運営審議会 利用者懇談会 社会教育推進員活動 館報発行・ホームページ更新

報告（1）令和2年袖ヶ浦市成人式の実施結果について

令和2年袖ヶ浦市成人式実施結果

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標を掲げ、袖ヶ浦市の成人式を開催した。市民会館・長浦公民館・根形公民館・平岡公民館の4会場に分かれて実施した結果は下記のとおりである。

1. 実施状況

昭和・長浦・根形・平川地区は1月12日(日)午前9時30分から受付、10時30分から式典。蔵波地区は午後0時45分から受付、午後1時30分から式典。式典終了後は、それぞれの会場で記念撮影やビデオレターなどの記念行事を実施し終了した。

2. 式典出席者

地 区	対 象 者			出 席 者			出席率%	前 年 出席率%
	男	女	計	男	女	計		
昭和地区	127	116	243	84(6)	75(1)	159(7)	65.4	67.0
長浦地区	63	51	114	40(3)	31(5)	71(8)	62.3	76.1
蔵波地区	92	67	159	67(6)	51(3)	118(9)	74.2	72.7
根形地区	27	22	49	23(5)	21(1)	44(6)	89.8	83.6
平川地区	57	56	113	44(2)	48(5)	92(7)	81.4	79.4
計	366	312	678	258(22)	226(15)	484(37)	71.4	74.5

*対象者には、市外転出者を含む（カッコ内は市外転出者の出席数で内数）

5年間の推移

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年
対象者数(人)	6 2 7	6 8 4	6 4 0	6 5 4	6 7 8
出席者数(人)	4 8 5	5 3 3	4 9 8	4 8 7	4 8 4
出席率(%)	7 7 . 4	7 7 . 9	7 7 . 8	7 4 . 5	7 1 . 4

3. 記念行事

各館で行われた記念行事の内容と参加人数は次のとおりである。

【昭和地区】

会 場 市民会館
 内 容 立食パーティー（500円会費）・ビデオレター
 記念撮影（1,000円）
 参加人数 130人（恩師8人を含む）

【長浦地区】

会 場 長浦公民館

内 容 恩師からのお祝いの言葉・記念撮影（１，０００円）
 参加人数 ７１人

【蔵波地区】

会 場 長浦公民館
 内 容 恩師からのお祝いの言葉、ビデオレター
 記念撮影（１，０００円）
 参加人数 １１８人

【根形地区】

会 場 根形公民館
 内 容 祝賀パーティー（５００円会費）
 おもいで給食試食（米粉パン、揚げパン）
 記念撮影（１，０００円）
 中学校へCDラジカセ寄贈
 参加人数 １００人（恩師、家族を５６人を含む）

【平川地区】

会 場 平岡公民館
 内 容 ビデオレター上映
 新成人の主張
 記念撮影（１，０００円）
 参加人数 ９２人

4. その他の参加者

地 区	来 賓 (実行委員は除く)	実行委員	職 員 (実行委員は除く)	そ の 他	計
昭和地区	１５	７	４	１１	３７
長浦地区	５	７	２	２２	３６
蔵波地区	７	６	２	２３	３８
根形地区	７	８	２	１４	３１
平川地区	１０	１３	３	５	３１
計	４４	４１	１３	７５	１７３

※ 来賓には案内者（主催者）を含む。

※ 実行委員には、新成人は含まない。

※ その他は、社会教育推進員、青少年相談員などの会場設営協力者

5. 記念品

館長会議や成人式担当者会議での検討の結果、ガウライラスト入りフォトフレームに決定し、当日に配付を行った。

6. まとめ（目標に対する結果）

「生まれ育った郷土に感謝し、社会の一員として力強く生きる気持ちを持つ」という目標に対する結果は下記のとおりである。

【昭和地区】

受付は、実行委員以外の新成人によるロビーでの案内等を行い、スムーズに滞りなく行うことができた。

式典は、新成人による進行のもと厳粛な雰囲気の中、実施できた。新成人代表挨拶では、成人になった喜びとともに家族、お世話になった先生、地域の方々への感謝の気持ち、そして、社会の一員としての自覚と責任を持ち、今後の人生を送る決意が感じられた。

記念行事は、中ホールにおいて新成人の企画、運営のもと小学校、中学校時代の恩師を招いた立食パーティーとビデオレターの上映を行い、和やかな雰囲気の中、当時を懐かしむ会話が飛び交った。スムーズに実施することができた。

【蔵波地区】

開式直前までは、賑やかな様相であったが開式以後は、会場全体が儀式にふさわしい雰囲気となり、成人としての自覚がうかがえた。

式直前には実行委員全員で来賓控室に来室し、「本日はよろしく申し上げます」と挨拶した。主体的・自主的な姿に来賓一同大変感心していた。成人代表挨拶の際の大きくしっかりとした「はいっ」の返事で式典全体がより引き締るのを感じた。旧友の遺影を実行委員が抱えながら式に臨んでいた姿に当時から紡がれてきた深い絆を感じた。

記念行事では、中学校3年の際の恩師6名よりスピーチがあり、温かな雰囲気の中で記念行事が進行した。

スピーチ後には当日来られなかった恩師からのビデオレターを上映し、当時を懐かしむ声や笑い声があがった。

式典前には式の段取りを何度も確認している姿があり、その姿に成人としての自覚を感じた。

二つの地区の成人式を挙げるにあたって、その準備、当日運営、後片付けには社会教育推進員、青少年相談員など多くの地域の方々のご支援ご協力がなければ、このような充実した立派な式ができないことを大いに感じた。

【長浦地区】

曇天の中集まってくる新成人は晴れやかな表情で、開式直前までは久しぶりの再会を喜ぶ姿でにぎやかな様相であった。開式以後は厳かな空気に包まれ、成人としての自覚がうかがえた。

記念行事は中学当時の恩師にサプライズ登場していただき、緞帳が上がると新成人・保護者から大きな歓声上がり、これまで一生懸命準備を行ってきた実行委員の満面の笑みが印象的だった。

恩師5名からそれぞれスピーチをいただき、最後に新成人の当時の校長先生であった石橋長浦公民館長伴奏で思い出の曲である「栄光の架け橋」を新成人・保護者を含め全員

で歌いととも盛り上がった。

想定された午後の部との入れ替えも、大きな混乱もなくスムーズに午後の準備に入ることができた。

【根形地区】

記念式典は、とても厳粛であった。司会や国歌斉唱の指揮・伴奏、主催者挨拶などの話を聞く新成人の姿は、立派であった。また、新成人代表挨拶は、代表の思いが伝わるものであった。会場で見守った家族や恩師は、その成長を強く感じていたように思う。

式典後、新成人自らで企画した祝賀パーティーが開催された。パーティーには、恩師のみならず家族も参加するなど、地域のあたたかさ、“根形らしさ”を感じさせるものであった。パーティー会場に、亡き恩師のコーナーも設けられ、新成人の恩師への想いも感じさせられた。パーティーでは、中学校時代のスライドショー、旧友たちとの会話、おもいでの給食試食（米粉パン、揚げパン）等が行われ、新成人にとってかけがえのないものとなった。また、ねこまろを企画・運営するN.O.Cが、活動PRを行い、これをきっかけに、先輩後輩といった縦のつながりが築かれ、活動の活性化につながればと思う。

祝賀パーティー後、第2回実行委員会会議を開催した。新成人からは、「友人らと有意義な時間が過ごせた。」、「実行委員の方々の支援に感謝している。」、「家族から成人式が良かった、といった声が聞け、それが何よりもうれしかった。」といった言葉があった。また、新成人以外の実行委員からは、「根形地区を忘れないで欲しい。また、地域のために活動して欲しい。」、「支え合いの気持ちを大事にして欲しい。」といったメッセージが伝えられ、今年度も厳粛で、充実した内容の成人式であった。

【平川地区】

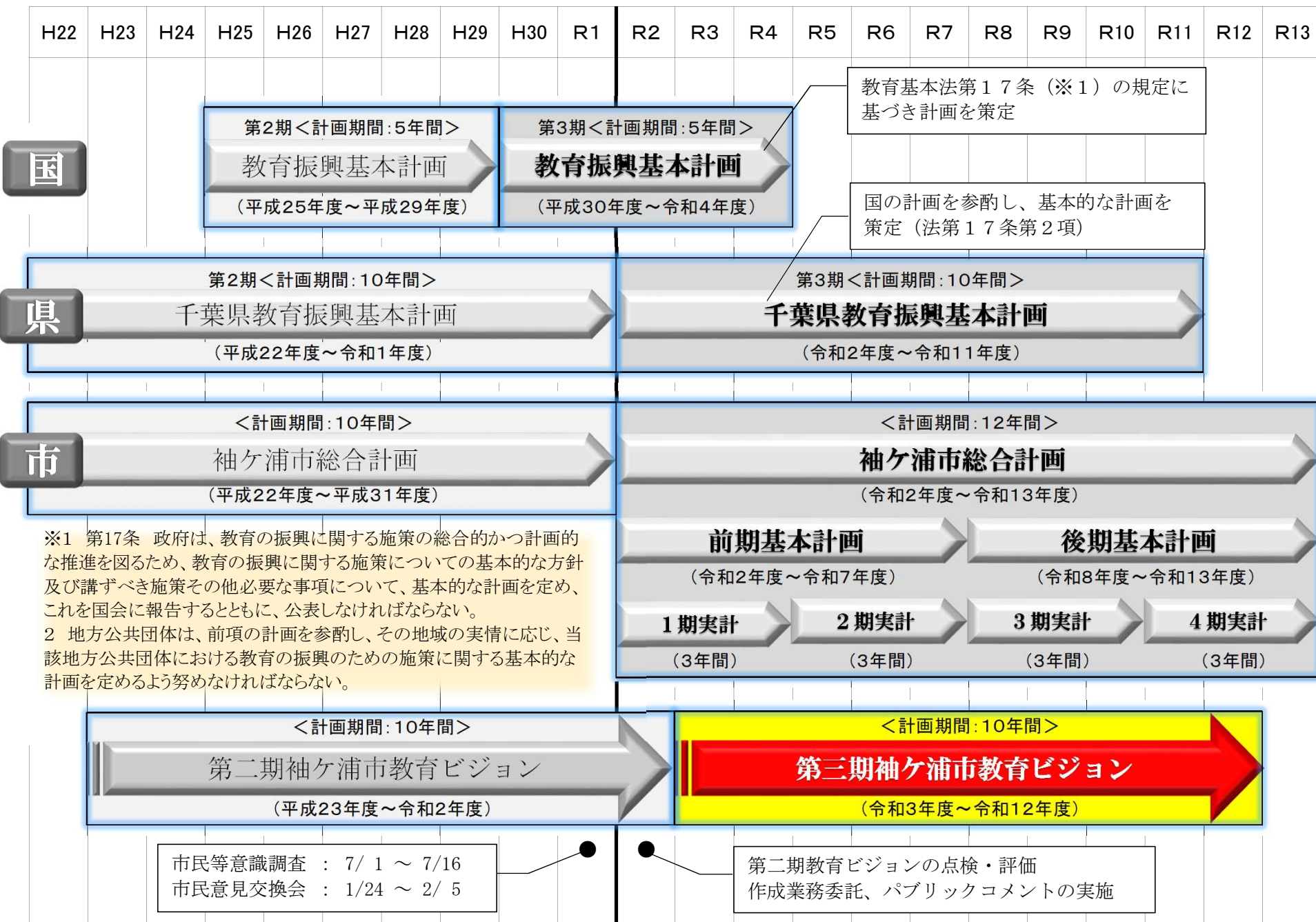
記念式典では、実行委員として進行や国歌斉唱の指揮・伴奏などを担当した新成人がそれぞれの役割を立派に果たし、厳粛な雰囲気の中で進めることができた。

記念行事はビデオレターと新成人の主張を行った。ビデオレターでは小中学校の写真、小中学校の恩師からのメッセージを上映した。恩師の映像が切り替わるたびに新成人から歓声が上がった。新成人の主張では代表者6名が登壇し、これからの抱負を発表した。

家族席も80席用意した9割が埋まり来場した関係者にも好評をいただいた。

多くの保護者、地域の方々、そして恩師の先生方に見守られながら、厳かな式典と若者らしい希望溢れる記念行事ができた。

その他（１）第三期袖ヶ浦市教育ビジョンについて



<国>

<千葉県>

<袖ヶ浦市>

教育基本法
(平成18年12月改正)

千葉県教育振興基本計画
<第3期(2020年~2029年)>

袖ヶ浦市総合計画
(2020年~2031年)

教育振興基本計画
第3期(2018年~2022年)

地方教育行政の組織
及び運営に関する法律

幼稚園教育要領
小中学校学習指導要領
(平成29年3月改定)

<参考>

<整合>

<総合教育会議>
袖ヶ浦市教育大綱

<整合>

<即す>

第3期袖ヶ浦市教育ビジョン
<袖ヶ浦市教育振興基本計画>
(2021年~2030年)

図書館サービス網計画・スポーツ振興計画・子ども読書活動推進計画・
教育施設長寿命化計画等

第三期袖ヶ浦市教育ビジョン(教育振興基本計画)
市民等意識調査報告書(概要版)



令和元年11月
袖ヶ浦市教育委員会

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	2
2. 調査の種類	2
3. 調査方法と回収状況	2
4. 調査結果を見る上での注意事項	2
5. 回答者の属性	3
第2章 調査結果の概要	5
1. 学校教育	6
2. 家庭教育	8
3. 地域教育	10
4. 生涯学習	11
5. スポーツ・運動	12
6. 教育全般	13
第3章 調査結果の分析	<省略>
第4章 自由記入	15

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本市では、第一期教育ビジョン（平成13年度から平成22年度）及び第二期教育ビジョン（平成23年度から令和2年度）を策定し、本市の望ましい姿を展望し、目指すべき目標やその基本的な考え方を総合的かつ体系的にまとめ、この計画に基づき、各種の教育施策を展開し、事業を推進してきた。

このような状況の中、第二期教育ビジョンが令和2年度をもって満了するため、新たな教育振興基本計画（教育ビジョン）を策定することが必要となっており、その資料とするため、新たな時代を担う青少年の育成や生涯にわたって健康で自由に学ぶことのできる環境づくりなど、今後、市が目指すべき方向等について、教育全般にわたり、ご意見・ご要望などを伺うアンケート調査を実施した。

2. 調査の種類

調査区分	対象者	対象者数
1. 市民	20歳以上の一般市民（無作為抽出）	900
2. 保護者	調査対象の小5児童・中2生徒の保護者	1091
3. 教職員	小・中学校の教員	316
4. 小5	小学校5年生	598
5. 中2	中学校2年生	493

3. 調査方法と回収状況

調査方法：市民のみ、郵送配付→郵送回収によるアンケート調査

保護者、教職員、小5、中2は、学校を通じての配付→回収

調査期間：令和元年7月1日（土）～7月16日（月）

<回収状況>

調査区分	発送数（配付数）	回収数	回収率
1. 市民	900	288	32.0%
2. 保護者	1091	955	87.5
3. 教職員	316	298	94.3
4. 小5	598	584	97.7
5. 中2	493	463	93.9

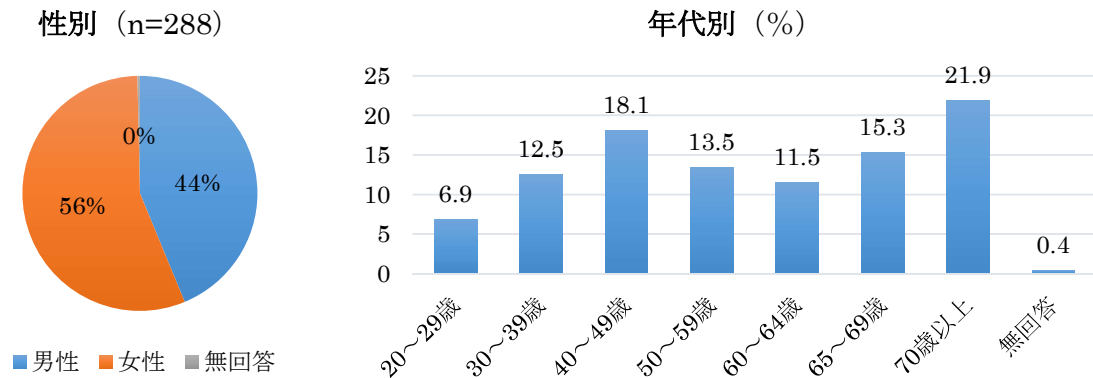
4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。

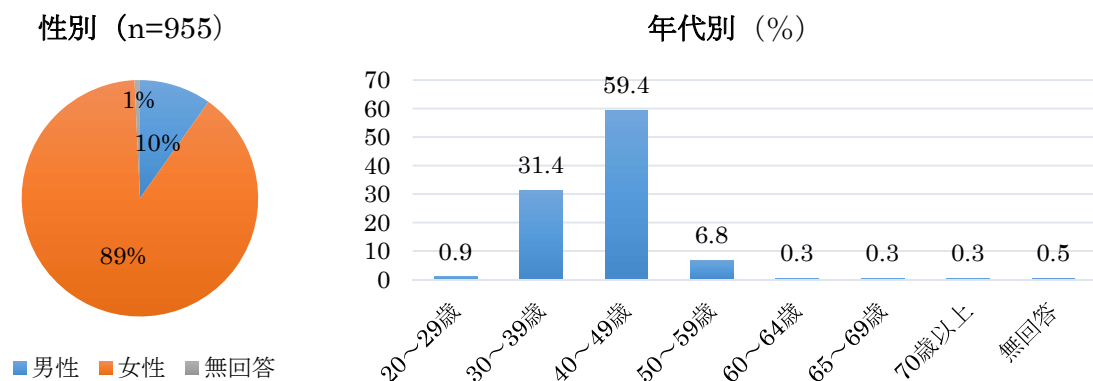
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

5. 回答者の属性

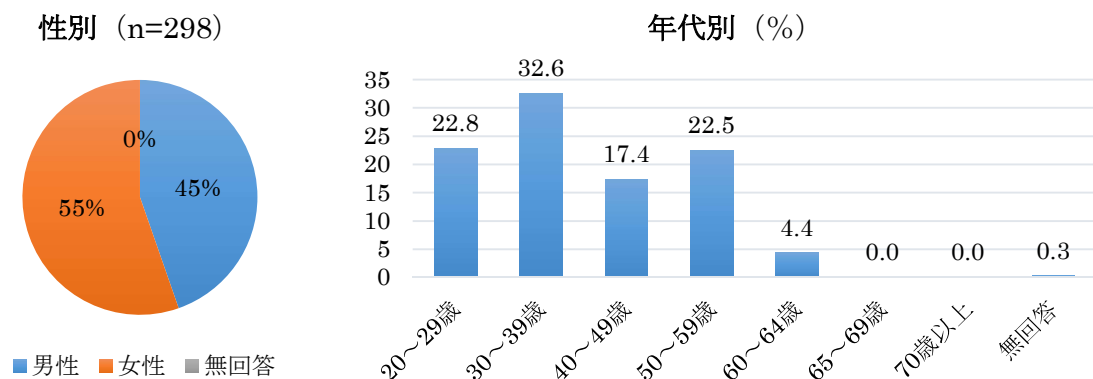
◆市民



◆保護者

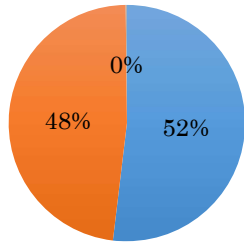


◆教職員



◆小学校5年生

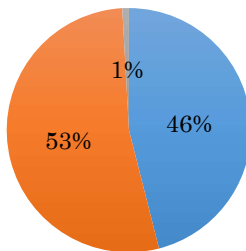
性別 (n=584)



■男子 ■女子 ■無回答

◆中学校2年生

性別 (n=463)



■男子 ■女子 ■無回答

第2章 調査結果の概要

今回の調査の主な質問項目と、その回答のあらましを要約する。

1. 学校教育

◆市内の学校の良いところ

市内の学校で特に良いと思うところについては、〈市民〉では、「わからない」が39.2%で最も多く、これに「施設や設備など、教育環境が整備されている」が35.4%で次いでいる。

一方、〈保護者〉では、「読書教育や自然体験学習など、特色ある教育活動が推進されている」が46.2%で最も多く、「施設や設備など、教育環境が整備されている」が45.7%で次いでいる。

また、〈教職員〉では、「施設や設備など、教育環境が整備されている」が61.1%で最も多く、「市独自に教員を採用し、きめ細かな指導が行われている」(56.7%)と「読書教育や自然体験学習など、特色ある教育活動が推進されている」(54.0%)が特に多く、過半数を占めている。

前回調査と比較すると、「施設や設備など、教育環境が整備されている」や「読書教育や自然体験学習など、特色ある教育活動が推進されている」が比率的には若干低下したものの、依然として学校の良いところとして挙げられている。

◆改善点

今の学校に改善して欲しいこととしては、〈市民〉では、「いじめ・問題行動等の生徒指導」が43.8%と最も多く、「やさしさや思いやりなどの豊かな心の育成」(38.5%)、「挨拶、礼儀などの基本的生活習慣の指導」(36.5%)と続いている。

一方、〈保護者〉では、「いじめ・問題行動等の生徒指導」が33.7%と最も多く、「学力の向上」(29.7%)、「やさしさや思いやりなどの豊かな心の育成」(27.5%)、「挨拶、礼儀などの基本的生活習慣の指導」(25.9%)が25%を超えている。

また、〈教職員〉では、「ゆとりのなさ」が64.1%で最も多く、「学力の向上」が38.9%で次いでいる。

市民、保護者及び教職員ともに、前回調査と同様な比率となったが、「いじめ・問題行動等の生徒指導」が全ての対象で増加している。また、教職員においては、「やさしさや思いやりなどの豊かな心の育成」が23.3%上昇した。

◆担うべき役割

学校教育が担うべき役割としては、「集団の一員としてより良い関係を築ける力を身に付けさせること」が77.2%で最も多く、「社会に必要な基礎的な知識や技能を教えること」(64.8%)が過半数を超えている。

前回同様、「集団の一員としてより良い関係を築ける力を身につけさせること」(77.2%)、「社会に必要な基礎的な知識や技能を教えること」(64.8%)、「学ぶ意識を育むこと」(44.0%)が上位を占める結果となった。

◆学校に期待する教育内容

学校に期待される具体的な教育内容としては、「思考力・判断力・表現力の育成」(市民58.3%、保護者57.5%、教職員55.7%)、「人間関係づくり」(市民50.7%、保護者50.3%、教職員

68.1%) がそれぞれ 50%を超えている。

前回調査同様に、「基礎学力の育成」、「思考力・判断力・表現力の育成」及び「人間関係づくり」が上位を占める結果となった。前回調査に比べ変化が見られるものは、「国際理解・英語教育」が各対象区分において大幅な増加をしている点である。

◆社会人による授業の導入

教員以外の社会人（各分野の専門家など）による授業の導入について、〈保護者〉では、「小学校から導入すべきである」が 61.4%と最も多くなっている。

また、〈教職員〉でも、「小学校から導入すべきである」が 56.7%と最も多くなっている。

◆市民等による学校支援活動の導入

市民等による学校支援活動（学校ボランティア）の導入について、〈市民〉では、「わからない」が 37.2%で最も多く、「環境整備、学習支援ともに充実すべきである」が 22.9%で次いでいる。

また、〈保護者〉では、「今のままでよい」が 36.4%、「環境整備、学習支援ともに充実すべきである」が 21.2%と多くなっている。

一方、〈教職員〉では、他の項目に比べ、「学校の清掃や小規模な修理等、学校環境の整備を充実すべきである」(33.9%) 及び「環境整備、学習支援ともに充実すべきである」(48.7%) が多く、80%を超えている。

学校支援活動への参加については、「参加したい」意向が全てにおいて減少しており、「どちらでも参加は無理である」が大幅に増加した。

◆先生の資質として望むこと

学校の先生の資質として望むことについては、「わかりやすい授業ができること」(51.8%) と「子どもに公平・公正に接すること」(52.6%) が、いずれも 50%を超えて多くなっている。また、「物事を正しく判断し行動できる能力があること」(39.8%) と「悪いことは悪いときちんと正せること」(35.2%) も 30%を超えている。

◆授業内容の理解度

学校の授業内容の理解度については、〈小5〉では、「よくわかる」が 38.5%で、これに「だいたいわかる」51.9%を合わせた『理解できる』は 90.4%を占めている。一方、「半分位わかる」は 7.4%、「あまりわからない」は 1.7%に止まっている。

また、〈中2〉では、「よくわかる」が 20.3%で、これに「だいたいわかる」54.6%を合わせた『理解できる』は 74.9%を占めている。一方、「半分位わかる」は 19.7%、「あまりわからない」は 4.3%となっている。

小5、中2ともに、「よくわかる」、「だいたいわかる」の“理解できる”割合が増加している。これに伴い、「半分位わかる」、「あまりわからない」項目は減少している。

◆好きな先生

好きな先生としては、〈小5〉では、「わかりやすく教えてくれる先生」が 67.1%で最も多く、「いろいろなことを教えてくれる先生」(40.1%)、「信頼できる先生」(33.7%) の順で続いている。

また、〈中2〉では、「わかりやすく教えてくれる先生」が 57.5%で最も多く、「誰にも公平に接してくれる先生」(54.2%)、「気軽に相談に乗ってくれる先生」(43.4%) の順で

続いている。

小5では、「わかりやすく教えてくれる先生」が好まれ、「気楽に相談に乗ってくれる先生」の人气が減少している。

中2では、「いろいろなことを教えてくれる先生」及び「信頼できる先生」が減少し、「誰にも公平に接してくれる先生」、「気軽に相談に乗ってくれる先生」が増加となった。

◆学校での不満

学校で不満に思うこととして、＜小5＞では、「ゆっくりする時間が少ない」(17.1%)、「非行やいじめへの対応が十分ではない」(9.4%)となっている。一方、「不満はない」は、63.9%と多くなっている。

また、＜中2＞では、「ゆっくりする時間が少ない」が16.9%で最も多く、「授業がわからない」(12.1%)、「学校の外で行う授業が少ない」(10.4%)の順で続いている。なお、半数近く(49.5%)が「不満はない」としている。

不満に思う各項目とも減少しており、「不満はない」が、小5では25.0%、中2では31.3%増加する結果となった。

◆理想の学校

理想の学校として、＜小5＞では、「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」が39.4%で最も多く、以下「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」(31.5%)、「同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える」(19.0%)の順で続いている。

一方、＜中2＞では、「学校にいるとほっとしたり、楽な気持ちになれる」が36.9%で最も多く、以下「学校の活動で、いろいろな体験をする機会がもっと増える」(33.3%)、「同級生や上級生、下級生と一緒に行事などに取り組む機会が増える」(22.5%)の順で続いている。

2. 家庭教育

◆担うべき役割

家庭教育の役割として、＜市民＞では、「早寝、早起き、朝ご飯等の基本的な生活習慣を教えること」が78.1%で最も多く、以下「他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的な倫理観を養うこと」(66.7%)、「悩みや相談に応じること」(45.38%)の順で続いている。

また、＜保護者＞においても、「早寝、早起き、朝ご飯等の基本的な生活習慣を教えること」が68.0%で最も多く、以下「他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的な倫理観を養うこと」(65.2%)、「悩みや相談に応じること」(47.4%)の順で続いており、市民の回答傾向とほぼ一致している。

一方、＜教職員＞では、「早寝、早起き、朝ご飯等の基本的な生活習慣を教えること」が95.0%を占めているほか、「生活の乱れや非行を防止すること」(55.0%)、「人格形成や人生観を養うこと」(52.0%)が続いている。

市民及び保護者ともに前回調査と同様な傾向となっている。

教職員では、「社会に必要な基礎的な知識や技能を教えること」が増加した。また、市民や保護者と比べ、「人格形成や人生観を培うこと」及び「生活の乱れや非行を防止すること」の

比率が高いことも特筆できる。

◆家庭教育力への評価

家庭の教育力について、〈市民〉では、「よく行われている」が2.8%、「ほぼ行われている」の20.5%を加えた23.3%が行われていると評価している。また、「どちらともいえない」は34.4%である。一方、「あまり行われていない」は16.3%、「ほとんど行われていない」は2.8%となっている。

また、〈保護者〉では、「よく行われている」が5.1%、「ほぼ行われている」の41.2%を加えた46.3%が行われていると評価している。また、「どちらともいえない」は40.0%である。一方、「あまり行われていない」は5.3%、「ほとんど行われていない」は0.8%となっている。

〈教職員〉では、「よく行われている」が1.3%、「ほぼ行われている」の24.5%を加えた25.8%が行われていると評価している。また、「どちらともいえない」は50.3%である。一方、「あまり行われていない」は13.4%、「ほとんど行われていない」は3.0%となっている。

◆家庭教育力の向上を図るために力を入れるべきこと

家庭の教育力の向上を図るために力を入れるべきこととして、〈市民〉では、「学校と家庭との連携を強化する」(46.9%)、「育児や家庭教育について身近に相談できる人や窓口を充実させる」(41.3%)が40%を超え、多くなっている。

また、〈保護者〉では、「学校と家庭との連携を強化する」が40.1%で最も多く、「共働き家庭への支援を行う」(32.0%)、「保護者が気楽に家庭教育について学習できる機会をつくる」(27.7%)の順で続いている。

一方、〈教職員〉では、「育児や家庭教育について身近に相談できる人や窓口を充実させる」(59.7%)、「保護者が気楽に家庭教育について学習できる機会をつくる」(52.0%)が50%を超え、「共働き家庭への支援を行う」が46.0%で次いでいる。

市民及び保護者については、概ね前回調査と同様な傾向となっているが、「共働き家庭への支援を行う」については、増加している。

教職員については、「保護者が気軽に家庭教育について学習できる機会をつくる」が大幅に減少した半面、「共働き家庭への支援を行う」が大幅に増加した。

◆家庭の教育方針

家庭の教育方針について、〈保護者〉では、「明確ではないが、方針はある」が42.8%で最も多く、これに「明確な方針があり、いつも子どもに伝えている」が28.2%で次いでいる。「明確な方針があり、いつも子どもに伝えている」が減少し、「明確ではないが、方針はある」及び「明確な方針はない」が増加している。

◆不安に思うこと

不安に思うこととして、〈小5〉では、「不安はない」が62.0%で最も多く、「ゆっくりできる時間が少ないこと」(12.8%)「友だちとうまくいかないこと」(10.8%)が10%を超えている。

また、〈中2〉では、「不安はない」が36.3%で最も多く、以下「進学について」(34.6%)、「勉強がわからないこと」(26.4%)の順で続いている。

小5、中2ともに「不安はない」項目を新たに加えたところ、各項目が減少傾向のなか、

「不安はない」が一番多いものとなった。

◆困った時、悩みがある時に相談する人

困った時や悩みがある時の相談相手としては、＜小5＞で、「お父さんやお母さん」が62.8%で最も多く、これに「友だち・先輩」が39.6%で次いでいる。また、「自分で解決する」も39.4%と多くなっている。

＜中2＞では、「友だち・先輩」が64.2%で最も多く、これに「お父さんやお母さん」が50.8%で次いでいる。また、「自分で解決する」も49.0%と半数近くが回答している。

悩みの相談相手としては、小5で、「お父さんやお母さん」が微増であるが、「学校の先生」が大きく増加している。

中2では、「お父さんやお母さん」、「友だち・先輩」及び「学校の先生」が増加している。

◆充実感があるとき

夢中になれたり、充実感を感じられるときとして、＜小5＞では、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」が59.4%と最も多く、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(48.3%)、「スポーツで体を動かしているとき」(39.0%)が続いている。

また、＜中2＞でも、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」68.0%が最も多く、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(58.3%)、「スポーツで体を動かしているとき」(40.6%)と続いている。

3. 地域教育

◆担うべき役割

地域社会における教育が担う役割として、＜市民＞では、「社会のルールやマナーなどを教えること」が63.2%で最も多く、以下「様々な危機から子どもを守ること」(39.6%)、「自然体験や社会体験の場を与えること」(33.3%)の順で続いている。

また、＜保護者＞では、「社会のルールやマナーなどを教えること」が62.9%で最も多く、以下「様々な危機から子どもを守ること」(41.8%)、「思いやりの心を育てること」(32.8%)の順で続いている。

＜教職員＞でも、「社会のルールやマナーなどを教えること」が70.8%で最も多く、「地域の伝統文化を教え、郷土愛を育てること」(58.4%)、「様々な危機から子どもを守ること」(50.7%)が50%を超えている。

前回調査と比較すると、市民では、「社会のルールやマナーなどを教えること」が大幅に減少した反面、「様々な危険から子どもを守ること」や「子どもの様々な能力を發揮させる場を与えること」が増加している。保護者及び教職員では、各項目とも前回調査から減少傾向であるが、「自然体験や社会体験の場を与えること」及び「思いやりの心を育てること」が増加している。

◆学校における児童・生徒の生活の問題点

＜教職員＞に、学校における児童・生徒の生活の問題点を聞いたところ、「心の状態が不安定な児童・生徒が多い」(72.5%)、「対人関係がうまくいかない児童・生徒が多い」

(71.8%)が70%を超え、以下「夜ふかしなど生活リズムが崩れている児童・生徒が多い」(56.4%)、「家庭環境の不安定な児童・生徒が多い」(48.7%)の順で続いている。

「対人関係がうまくいかない児童・生徒が多い」、「家庭環境の不安定な児童・生徒が多い」及び「塾や習い事、スポーツクラブ等でゆとりのない児童・生徒が多い」項目が減少している反面、「授業を理解できない児童・生徒が多い」が増加している。

◆規範意識の変化

以前と比較した今の子どもたちの規範意識について、＜市民＞では、「わからない」が34.0%で最も多く、以下「低下している」(33.3%)、「以前と変わらない」(20.5%)となっており、「向上している」は、8.7%に止まった。

また、＜保護者＞では、「以前と変わらない」が38.0%と最も多く、次に「低下している」25.4%となっている。

さらに、＜教職員＞では、「低下している」が44.3%を占め、3者の中で最も厳しい評価となっている。

子どもたちの規範意識は、市民、保護者及び教職員ともに、「低下している」が大幅に減少し、「向上している」が増加している。

4. 生涯学習

◆現在行っている活動

現在行っている生涯学習活動としては、「趣味、教養に関するもの（音楽、美術、芸能、歴史、読書など）」が34.7%、「健康づくりやスポーツに関するもの」(29.9%)、「家庭生活に関するもの（料理、編み物、ガーデニング・ミニ菜園など）」(20.5%)と続いているが、「生涯学習活動は行っていない」が35.1%と最も多い。

◆活動を行っていない理由

生涯学習活動を行っていない人に、その理由をきくと、「仕事や家事、学業が忙しく時間が取れない」が53.5%で最も多く、「きっかけがつかめない」(23.8%)、「特に理由はない」(20.8%)と続いている。

生涯学習活動を行っていない理由は、前回調査と傾向は同様であるが、「必要な情報がなかなか入手できない」及び「一緒に学習や活動を行う仲間がない」が増加している。

◆今後の活動意向

今後の生涯学習活動への参加意向については、「ある」が47.6%で、これに「機会や条件が整えば始めたい」(19.4%)を合わせると、67.0%が参加の意向があるとしている。

「ある」及び「機会や条件が整えば始めたい」を合わせた参加の意向があるものは、前回調査とほぼ同じ結果となった。

一方、参加の意向がないものである「ない」は増加する結果となった。

◆活動を続ける、始めたい理由

生涯学習活動を続ける、始めたい理由については、「健康維持や体力づくりのため」が43.1%で最も多く、以下「生きがいを持つため」(41.0%)、「知識・教養を高めるため」(28.8%)の順で続いている。

◆市が行う講座や教室への意見

市が行う生涯学習の講座や教室への要望としては、「特に希望や要望なし」が43.8%と最も多くなっているが、「講座や教室に関する情報をたくさん提供して欲しい」(30.2%)、「身近な施設で受講できるようにして欲しい」(21.69%)の順で続いている。

「特に希望や要望なし」が大幅に増加した以外は、各項目ともに減少している。

◆盛んにするために力を入れるべきこと

生涯学習を盛んにするために力を入れるべきこととしては、「公民館・図書館の講座の種類や回数を充実させる」が26.4%で最も多く、以下「特になし」(21.9%)、「公民館や図書館、博物館等の施設を充実させる」(20.8%)、「情報提供と相談窓口の開設により、市民の自発的な活動を支援する」(20.5%)の順で続いている。

今回、新たに「市民の学習意欲に対応できる図書館の資料やサービスを充実させる」を加えたことから、他の項目は前回調査より減少している。

5. スポーツ・運動

◆この1年間の平均頻度

この1年間に平均して行った運動やスポーツの頻度については、〈市民〉では、「週1回以上」が29.9%で最も多く、「月1回以下」(14.9%)が次いでいる。

〈小5〉では、「週1回以上」が47.1%で半数近くを占め、「毎日」が21.8%で次いでいる。

〈中2〉でも、「週1回以上」が30.7%で最も多く、「毎日」が20.5%で次いでいる。

市民、小5及び中2ともに、「毎日」しているものが増加している。また、市民及び中2では、「週1回以上」も増加している。一方「これから始めたい」は減少している結果となった。

◆運動やスポーツをする理由

運動やスポーツをする、又は始めたい理由として、〈市民〉では、「健康や体力づくりのため」が圧倒的に多く、90.5%となっており、「ストレス解消のため」(33.5%)、「趣味として楽しむため」(24.9%)の順で続いている。

〈小5〉では、「健康や体力づくりのため」(46.4%)が最も多く、「体を動かすことが好きなため」(36.6%)、「趣味として楽しむため」(23.8%)の順で続いている。

〈中2〉では、「健康や体力づくりのため」(31.3%)が最も多く、「趣味として楽しむため」(22.5%)、「体を動かすことが好きなため」(22.3%)の順で続いている。

市民、小5及び中2ともに、「体を動かすことが好きなため」が増加している。また、市民及び小5では、「健康や体力づくりのため」が増加している一方、中2では、「競技としてスポーツを行っているため」が増加している結果となった。

◆運動やスポーツをする場所

運動やスポーツを行っている場所について〈市民〉に聞いたところ、「市内の公共施設」が58.6%で最も多くなっている。

運動やスポーツをする場所については、「市内の公共施設」は微増である。

また、「市内のその他の施設」及び「市外のその他の施設」が大幅に増加している。

◆施設の老朽化対応

市内の運動やスポーツのできる公共施設の老朽化対応については、「市内に必要。現状を維持すればよいと思う」が21.9%で多く、「市内に必要。より良く(向上)するべきと思う」(16.3%)が次いでいる。

◆運動やスポーツをしない理由

運動やスポーツをしない理由として、〈市民〉では、「時間が無いから」が23.4%で最も多く、以下「健康上の理由により」(19.2%)、「運動が苦手だから」(14.9%)の順で続いている。

〈小5〉では、「時間が無いから」が21.0%で最も多く、「運動やスポーツに興味がないため」が19.4%で次いでいる。

〈中2〉では、「運動やスポーツに興味がないため」が29.9%で最も多く、「時間が無いから」が17.0%で次いでいる。

◆スポーツ振興のために力を入れるべきこと

スポーツ振興のために力を入れるべきことを〈市民〉に聞いたところ、「健康・体力づくり教室等の開催」が47.2%で最も多く、以下「高齢者・障がい者のための運動・スポーツ活動の推進」(28.5%)、「既存の公共スポーツ施設の整備」(27.1%)の順で続いている。

「スポーツ教室の開催」及び「運動・スポーツ指導者の養成・派遣」が減少しているが、その他の項目では増加している。また「健康・体力づくり教室等の開催」については、半数が望んでいる。

6. 教育全般

◆目指すべき姿として望ましいもの

教育全般について、目指すべき姿として、〈市民〉では、「学校・家庭・地域で連携・協力をして、社会全体の教育力を向上させる」が60.7%で最も多く、以下「知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の確かな学力を養う」(33.7%)、「規範意識を養い、豊かな心と健やかな体をつくる」(28.5%)の順で続いている。

また、〈保護者〉では、「知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の確かな学力を養う」が41.6%で最も多く、以下「学校・家庭・地域で連携・協力をして、社会全体の教育力を向上させる」(40.7)、「社会の要請や時代の変化に対応できる人材を育成する教育を行う」(39.6%)の順で続いている。

〈教職員〉では、「学校・家庭・地域で連携・協力をして、社会全体の教育力を向上させる」が59.4%で最も多く、以下「知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の確かな学力を養う」(40.3%)、「教員の資質向上を図るとともに、一人ひとりの子どもに教員が向き合う環境をつくる」(33.9%)の順で続いている。

市民では、各項目とも減少傾向であるが、「学校・家庭・地域で連携・協力して、社会全体の教育力を向上させる」が大幅に増加した。保護者では、「社会の要請や時代の変化に対応できる人材を育成する教育を行う」、「規範意識を養い、豊かな心と健やかな体をつくる」及び「安全・安心な教育環境を実現する」が増加している。教職員では、「学校・家庭・地域で連携・協力して、社会全体の教育力を向上させる」及び「家庭の教育力の向上を図る」が増加している。

◆市の教育について目指すべき姿をあらわす言葉

市の教育について目指すべき姿をあらわす言葉として、〈市民〉では、「あたたかさ」が63.2%で突出しており、以下「心豊か」(31.3%)、「たすけあい」(26.0%)の順で続いている。

<保護者>では、「あたたかさ」が57.6%で最も多く、以下「たすけあい」(32.1%)、「心豊か」(27.4%)の順が続いている。

<教職員>では、「あたたかさ」が55.4%で最も多く、以下「心豊か」(42.6%)、「夢」(35.2%)の順が続いている。

市民では、前回調査と同様に「あたたかさ」、「心豊か」及び「たすけあい」が上位となっている。

保護者では、前回調査の上位であった「あたたかさ」、「心豊か」及び「夢」から、「あたたかさ」、「たすけあい」及び「心豊か」の順となった。

教職員では、「たすけあい」が大幅に減少し、「心豊か」及び「夢」が大幅に増加した。

第3章 調査結果の分析は省略

第4章 自由記入

各調査票の最後に、教育に関する意見を記載する欄を設けたところ、次のような意見が寄せられた。

<市民／意見数：73>

行政の関わりに関する意見 (他市と比較して良い環境である、施設の充実、母・父親学級の実施、子どものいる世帯の支援、情報提供、特別支援教員の増員等)	12
教育方法・指針に対する意見 (学校における教育方針等)	10
教師に対する意見 (質の向上、プロとしての自覚等)	5
家庭教育に対する意見 (しつけ、学校依存体質や家庭教育の重要性等)	3
学校生活に対する意見 (学校環境、設備、部活、いじめへの対応、先生の仕事量の多さ、あいさつ等)	10
心の教育に対する意見 (情操教育や規範教育等)	1
大人、地域の関わりに対する意見 (大人が規範行動を、地域と学校との連携、PTA、外部講師等)	3
防犯・安全に対する意見 (登下校時の子どもの安全確保、交通事故防止等)	6
その他の意見 (調査、子どもがいないからわからない、自然環境、大学の無償化等)	23

＜保護者／意見数：142＞

行政の関わりに関する意見 (世帯支援、施設、市の教育環境、子育て支援、通学路、学童、海外交流等)	23
教育方法・指針に対する意見 (学校における教育方針、自然体験学習、障害児の対応、運動会の時期、外部講師、先生のフォロー等)	35
教師に対する意見 (質の向上、プロとしての自覚、先生の威厳等)	27
家庭教育に対する意見 (しつけ、学校依存体質や家庭問題改善、保護者の資質向上)	3
学校生活に対する意見 (学校環境、設備、部活、いじめへの対応、不登校等)	22
心の教育に対する意見 (情操教育や規範教育等)	12
大人、地域の関わりに対する意見 (大人が子どもの手本、地域と学校との連携、地域交流の場、学校ボランティア、PTAの廃止等)	14
制度に対する意見 (土曜授業復活、ゆとり教育、少人数制クラス、学期制の改善、学区等)	4
その他の意見 (親自身の教育、調査について等)	2

＜教職員／意見数：44＞

処遇について (人事評価、待遇の改善勤務内容)	2
働き方改革について (子どもと向き合う余裕がない、校務支援システム、教材研究の時間、夏季休業も含め研修が多い、集金を引き落としに、多忙化の解消への尽力、人員増による負担の軽減、部活動ガイドライン)	11
教職員等の増員について (教師の負担軽減、一人一人を見ることができ環境、多忙解消等)	5
教育方針・指針について (自然体験、外部講師等の導入、短縮日課、少人数でゆとりのある教育)	5
学校施設等について (更なる施設設備の整備等)	2
地域との関わりについて (心の啓発、学校環境の整備、地域の教育力、家庭による教育)	4
情操教育・規範教育・道徳教育について (大人の平穏が子の幸せ、道徳心の育成)	2
調査について (設問に対しての選択肢が多すぎ)	1
職場環境に対する意見 (学校全体で育てている、教育に関して手厚い環境、情報化社会)	3
教育ビジョンに対する意見 (無理のない教育ビジョン)	1
その他の意見 (自己主張できる若者、親の子離れ、給食メニューの向上、予算面等で非常に充実、子どもたちをサポートする場等)	8

<小5ノ意見数：72>

学校生活に対する意見 (クラス、友達、いじめ、休み時間延長、学校行事、動物など)	35
給食に対する意見 (好きな料理等)	1
学校設備等に対する意見 (グラウンドやトイレ改善、プール設置、遊具増設、本の増冊等)	6
授業に対する意見 (授業の教え方、日課表、体育、コンピュータ授業等)	15
先生に対する意見 (怒る、厳しい、もっと厳しくてもいい、たくさん遊べる先生等)	6
大人に対する意見 (なぜ子どもに命令する、子どもにやさしく等)	5
その他の意見 (通学路、交通事故の減少等)	4

<中2ノ意見数：95>

学校生活に対する意見 (部活動、友達、いじめ、休み時間延長、靴の色、スマホなど)	50
学校設備等に対する意見 (トイレ改善、プール設置、自転車置き場等)	6
授業に対する意見 (個人の能力にあわせて、eスポーツ、日課等)	15
先生に対する意見 (怒る、厳しい、差別、授業の字を大きく等)	11
親・大人に対する意見 (平等に扱って、声を聞いて、決めつけしないで、色々な知識を教えて)	10
その他の意見 (将来何の役に立つのか、学校を誇りに思う)	3

第三期袖ヶ浦市教育ビジョン（教育振興基本計画）
市民等意識調査報告書

令和元年 1 1 月

調査・発行：袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 - 1
電話 0 4 3 8 - 6 2 - 2 1 1 1 （代表）
